九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

新スラヴ・日本語辞典における18世紀初めの薩摩方言語彙

村山，七郎

https://doi.org/10.15017/2332769

出版情報：文學研究. 68, pp.31-112, 1971-03-25. 九州大学文学部
バージョン：
権利関係：

新スラヴ・日本語辞典における 18世紀初めの薩摩方言語彙

村　山　七　郎

目　　次

はじめに……31
略号説明……41
凡　　例……42
薩摩方言単語リスト……44
権左の資料における外来語……105
権左の資料における新語……108
語彙索引……109

はじめに

本誌第67輯にわたしは「DYBOWSKI のシュムシュ島アイヌ語資料について　第Ⅰ部」を発表した．第Ⅱ部は「DYBOWSKI のシュムシュ島アイヌ語小辞典」として本誌に発表する予定であった．しかし，昭和45年度文部省刊行助成費によって上記第Ⅰ部，第Ⅱ部をふくむ『北千島アイヌ語　文献学的研究』が刊行されることになったので，第Ⅱ部を本誌第68輯に発表することはとりやめることにした．この点，ここにおことわりしておきたい．

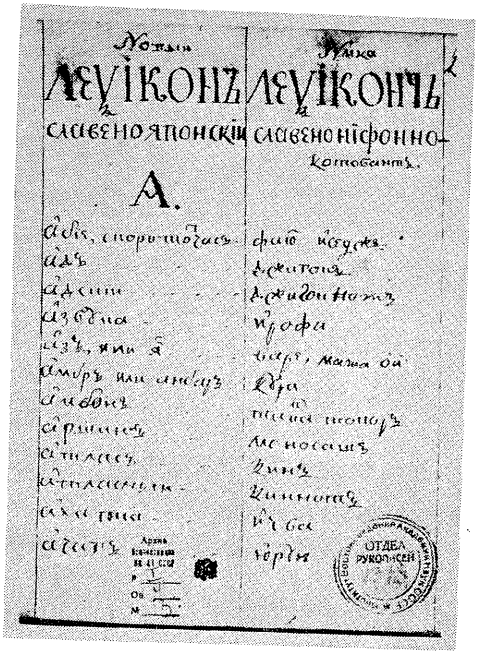
わたしは本誌第66輯（1969年）に権左（ロシア名ダミアン・ポモルツェフ）と A. ボグダーノフの共著「簡略文法」についての簡単な解説とテクスト（原文および日本語訳）を発表した．さいわいにして，これはソ連の学者の注意をもひくところとなった．1970年3月9日，レニングラード発のソ連の有名な17—18世紀ロシア語研究家ユー・ソローキン教授は筆

者あて私信につぎのように述べている．「発行された著書は18世紀の言語を研究するロシア語学者にとっても多大の興味があります．たとえば私にとって，シノニムの列がとくに興味があります．ここでは広汎な副詞の部で，シノニムがどっさり提示されています．……あなたは18世紀のロシア語について知られている証拠の範囲を，もうひとつの貴重な文献によって豊富にしました．わたしは御出版を紹介批評したいと存じます．」

さて，権左，ボグダーノフは協力して，約1万2千語のロシア語単語とそれに対応する日本語単語とからなる「新スラヴ・日本語辞典」Новый Лексикон Славено-японский[1] を編んだ(日本語単語の数は1万2千よりずっと少ない．なぜなら，いくつかのロシア語単語がひとつの日本語で訳されているばあいが少なくないから)．それは1736年9月29日から1738年10月27日までの，約2年2カ月で仕上げられた．場所はサンクト・ペテルブルグ〔外国ではペテルスブルグという．今のレニングラード〕のネワ河畔にそびえるクンストカーメラ（ペートル大帝の設立．ドイツ語Kunstkammer「美術品陳列室」からとった名称．レニングラード大学からほど遠くないところで，ネワ河にその美しい姿をうつしている)．そこに働いていた科学アカデミーの司書補アンドレイ・イワノウィチ・ボグ

---

1) この辞典が「新ロシア・日本語辞典」でなく，この名称をもつのは何故か。おそらくボグダーノフは18世紀のロシア文語が教会スラヴ語を根幹としていることを知っていたためかもしれない。18世紀のロシア文語――従ってその継続である現代ロシア文語――が教会スラヴ語を土台としていることについては，わが畏友 B.O. Unbegaun 教授（かってはストラスブール大学。現在はイギリスに在住）の説くところである。『非文語的なロシア語の諸要素をとり入れて教会スラヴ語は18世紀中葉に，ロシアの単一的民族語となった。つまり「現代ロシア文語」という術語で呼ぶならわしになっているものになった』と氏は述べる。ペ・エス・クズネツォフ追憶記念論集「人間と言語」Язык и человек，モスクワ1970年に寄稿した「ロシア語の史的文法とその諸課題」，p. 263。



新スラヴ・日本語辞典の　第1ページ

ダーノフが，1728年薩摩を出帆した青年権左[2]とともに，露和辞典をつくることを計画したのであった．出来あがった辞典はロシア語史にとってはもちろん，日本方言学にとっても貴重な資料を提供することになった．

2）権左についてはロシアの東洋学界の巨星ヴェ・バルトリドの『欧州殊に露西亜における東洋研究史』（外務省調査部訳，1937年，pp. 390-392），拙著『漂流民の言語』，p. 22以下，オ・ペトロワ「18世紀前半のロシアにおける日本語」（Народы Азии и Африки, 1965, No.1, pp.163-177）を参照されたい。コブレンツはボグダーノフにかんするモノグラフ（И. Н. Кобленц. Андрей Иванович Богданов, Москва 1958）のなかで，権左が1717年に生れ1739年に没したとする。没年はたしかであるが生年はさほどたしかでない。わたしは1965年6～7月訪ソのさいレニングラードの科学アカデミーのアルヒーフで「科学アカデミー史資料」から，薩摩漂流民宗左，権左にかんする部分を全部書きうつした。将来，発表する機会のあることをのぞむ。

言語資料の価値はそれがいつ，どういう状況で成立したかが明らかであるか否かによって左右されるところが大きい[3]．この点，「新スラヴ・日本語辞典」の日本語は権左が薩摩を出帆した1728年ころの，現在の鹿児島市付近のことばである（越谷吾山の「諸国方言物類称呼 全五巻—約4,000語のうち九州関係460語—が出版されたのはこの辞典が成ってから36年後，1775年1月であった）．権左が文字をほとんど読めなかったという事情はこの辞典の日本語の部の価値を高めこそすれ，低めるものではない[4]．なぜなら，このことによって，そこにしるされているのが18世紀はじめの薩摩のほぼ純粋の民衆ことばであることが保証されているからである．

つぎにこの辞典が音素字であるキリル字（ロシア字）を用いて日本語をしるしていることは，この上なくありがたいことである．もし，かりに1728年ころの薩摩の方言がひらがなまたはかたかなで書かれたとしたなら（ちょうど「物類称呼」におけるように），キリル字で書きあらわしたものに比較して，いちじるしく価値がおとるであろう．当時の薩摩方言は日本の仮名文字ではあらわしきれなかったし，仮名で書いてあれば，その音価

---

3) たとえば J. バチェラーのアイヌ語辞典は今までのところ最も語数の多いアイヌ語辞典であり，ユーカラなどを読む場合にも役立つのであるが，知里真志保氏は「アイヌ語入門」（東京1956年）の第10章（pp. 237-253）をその批評にあてている。「この辞書には各地の方言が雑居しているのであるが，その使用地あるいは採集地を明かにしていない。それがこの辞書の大きな欠陥の一つである」（p. 249）とのべている。

4) ゴンザは全然日本字を知らなかったわけでない。項目別露日辞典，1736年の最後には，一，二，三，四，五，六，七，八，九，十，十，十，十，十，十，十，百と書いてある。百の書き方はあやしげである。オ・ペトロワは権左が文字を知らなかったので，ロシア字で書いた日本語が「正しい転写ではとうていありえない」と述べたことがある（オ・ペトロワ，アンドレイ・タターリノフの露日「レクシコン」，モスクワ 1962，p. 7）。これは正しくない見方であった。ペトロワは「18世紀前半のロシアにおける日本語」ではこのような見方を改めている。権左は18世紀前半の薩摩方言を非常によくうつしている。

の判定に苦労せねばならなかったろうから．1603年長崎で刊行された日葡辞書の，ローマ字による日本語表記が16—17世紀の日本語の状態をよく反映し，その研究をいちじるしく促進したとおなじく，権左によるキリル字（ロシア字）の日本語表記は鹿児島方言の姿を活写しており，今後，九州諸方言の研究にとって価値をもつとおもう．ついでながら第七高等学校（鹿児島）の教師シュワルツ氏がローマ字で薩摩方言をうつした資料（ＳＳＤ）があるが，表記の精密さにおいて，とうてい権左に及ばない．ロシア語及びロシア字を自由に駆使した日本青年がその母語を，外人よりはるかによく表記できたのは当然である．

早晩この辞典[5]の日本語の部分の全体を日本の学界に提供したいと考えているが，ここではその一部を，東条操氏によってはじめられ，大岩正仲氏によってうけつがれている日本全国方言辞典の完成に，いささかでも貢献できるようにという意図で，発表することにする．

以下に示されるものと同じ諸単語の分布範囲として「全国方言辞典」において薩摩が示されていない場合が少なくない．また鹿児島県が示されていても大隅半島（肝属郡）だけが示されている場合も多い．薩摩における分布が学界ではじめて報告されるものが以下の資料中に少なくないと思う．たとえば，「蟻」をあらわすモルフェームの九州における分布が **KHK** (p. 176) に示されているが，鹿児島付近に対してはスアイ（シアイ，スアレ，スワリ，スワイ，スワレ，スワネ）が示され，**K** の cváï スアイがこれと合致するが，新スラヴ・日本語辞典には áï アイ＜アリだけが示されアイも鹿児島付近に18世紀初めころ行なわれていたことがわかる．（尤も権左の「友好会話集」でも蟻はスアイとあるから，この方がひろく用いられていたであろう．）

---

5) この辞典のロシア語の部分は18世紀前半のロシア語の研究にとってきわめて重要な資料を提供することは疑いない。この部分の出版も筆者はソ連側の学者の協力を得て，実現したいと希望している。

つぎのようなこともある．全国方言辞典に「**そーよー**　すべて．みんな福岡・長崎」とある「**そーよー**」は **HH** (p. 58) には「総容（皆様の儀）より転じたものと思う」としるされ，これは大言海に『そうよう　総容　他ノ家族一同ヲ呼ブ語（手紙ニ）「御総容様，御揃ヒ」』とある説に従ったものとおもう（上田万年・松井簡治，大日本国語辞典でも同じ解釈をとっている）．しかし，権左のこの辞典に cýĩõ スヨ「凡て」があるので，「そーよー総容」という解釈が正しくないことが判明した．日葡辞書（長崎1603年）にもしこの語（総容）があらわれるならば，sôyô の形をとるはず（つまり二つの母音とも，狭い長いオ）．ô は薩摩方言ではウ列音母音（権左ではキリル字 y，つまりローマ字に改めれば u）としてあらわれるから，総容は権左においては cyю スユでなければならないはず（じっさいには，前掲のように，cyĩõ スヨ）．他方，日葡辞書の ŏ（つまり広い，長いオ）は薩摩方言ではオ列音母音（権左ではキリル字で o，ローマ字に改めても o）としてあらわれる．この関係を表にすれば次のようになる（日葡辞書には「凡て」の意味の sôyô も sôyŏ もない．）．

日本漢字音	日葡辞書	大分県	薩摩方言 (KHK p. 256)		権左（括弧内は村山のつけ加えたもの）
オウ ou	ô	ū	u		y (u)
アウ au	ŏ	ō	o		o (o)

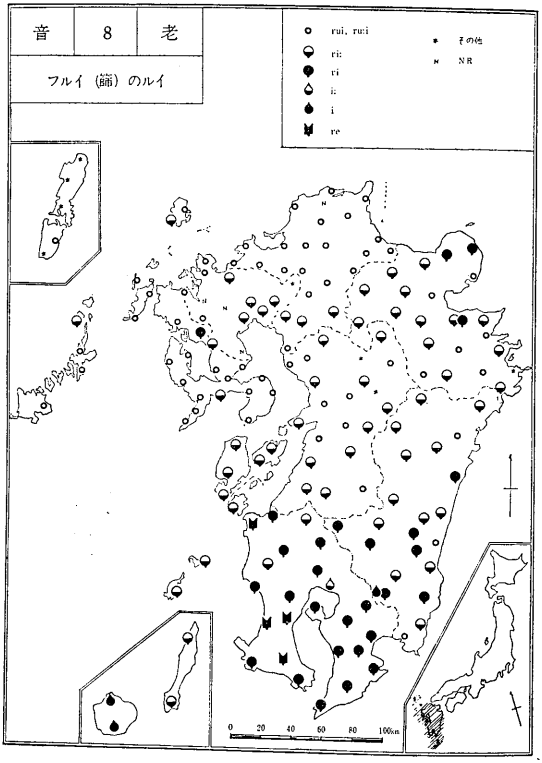
ついでながら，オホ「大」は日葡辞書で ô であり，従って，薩摩方言でウである（例えば権左において yka<y-ka「大きい」）．

権左における cyĩõ(suyo) スヨは日本漢字音ソウ・ヤウから出発していることを明示する．「総容（ソウヨウ）」でなく「総様（ソウヤウ）」がそれである．スヨ「凡て」という単語は従来のいずれの薩摩方言集（と言ってもわたしの見たのは KF, KHJ, OKH, SSD および福里栄三氏の「南方薩摩方言」（方言誌第5輯，東京 1933），山下光秋氏の谷山町方言集（上下，方言誌第6輯，第8輯，1932年）である）にも記録されていない．権左の記録したスヨ（「凡て」）という語形はソーヨーが九州の南端にも行なわれていたことを

に示し，大言海や大日本国語辞典の説が誤っていることを明示している．

また権左は18世紀前半の薩摩方言がもっていた特殊な母音を記録にとどめている．そのことについても簡単な説明を加えておきたい．

分布地図



『九州方言の基礎的研究』p. 140から

KHKはフルイ（篩）のルイが九州各地でどのような形をとっているかについての資料を図示している．p. 140には老人のばあい，p. 141には少年の場合の形が示されている．少年の場合はいわゆる「標準語」の影響がつよいので伝統的方言形を知るには老人のばあいによらなければならない．これによると鹿児島付近から南部にかけて，ルイに相当する部分が

(老人の言語において) re であり，同市より北方においては ri である．「新スラヴ・日本語辞典」では re でも ri でもない．「篩」は фуры(furï) である（わたしが本誌 66 輯に発表した権左，A・ボグダーノフの「簡略文法」(p. 20)には фуры「篩」の単数形，複数形の格変化（生格，与格，対格，造格，前置格）が示されている．ロシア字 ы の表わす母音をわたしは ï と転写したが，この母音についてポリワーノフ氏はつぎのように述べている．

「ロシア語の ы〔ɯ〕——後方の非円唇的な〔音〕．舌の位置は〔u〕のときと少しちがうが，〔u〕の音から円唇化をとり除き，舌の位置を少しも変えないと，ロシア語の ы に非常に近い音となる」(Е. Д. Поливанов. Конспект лекций по введению в языкознание и общей фонетике. Петроград 1916, p. 59).

また曰く，「ロシア語の ы〔ɯ〕は mixed とみなされることが稀でないが，それはやや前よりの back である．back タイプの明白な代表である母音〔u〕から唇の活動をとり除く（舌の位置はそのままにしておいて）ならば，ロシア語の〔ɯ〕に非常に近い（しかし多くのトルコ系言語，たとえばキルギース語，アゼルバイジャン語，ヤクート語独特の〔ɯ〕にもっと近い）音が得られる」(Е. Д. Поливанов. Введение в языкознание для востоковедных вузов. Ленинград 1928, p. 192)

わたしは ы を ï と転写する．権左の фуры (furï) という表記の第 2 音節母音は **KHK** (p. 140) で表わされている re の e とは明らかに異なる．権左は標準語のエ列音母音を ѣ で表わしており，また貝殻カイガラ kaigara の ai が収縮してできた母音をロシア字 e であらわしている (貝殻は権左において кегара)．ネンゴロンコッ (нѣнгоронкотъ)「親交」の第一音節の母音 (ѣ) やケガラ (кегара)「貝殻」の第 1 音節の母音 (e) より後方で調音される狭い母音を権左は ы(ï) というロシア字で表わしたと思われるのである．この母音は дáнгвы (dángwï)「乱機」，фарагъры (faragrï) (「腹狂」)「冗談」などにも見られる．権左の表記は「篩」のル

イが現代方言で re, ri となる前の段階において，やや後ろよりの中舌母音であったことを証明している．権左がたくみにそれをとらえ表記できたのは，ロシア語がそれに類する母音とそれを表わす文字（ы）をもっていたからである．他方，18，19世紀の日本の学者にとってはそれを表記するすべがなかったし，表記するすべが知られている現代ではそれは消滅して存在しないのである．

また **KHK**, p. 143 はトケイ（時計）のケイがどのように発音されるかの資料を示している．それによると，kei, ke^{i}, ke:, kɛ:, ke, ki: と発音されるが，権左は токѣ トケとしるし，大隅半島南部の ke と合致しているのも面白い．鹿児島県における他の凡ての地点は kei, ke^{i} であって，これは「標準語」からの影響によると結論されよう．

一般に薩摩方言の特徴は音の甚だしい収縮にある．長母音の短母音化，二重母音の単純母音化，語末母音の収縮，それによって語末に立つにいたった子音の中立化が薩摩方言と「標準語」とのかなり大きい距たりを生み出している（ついでながら，ひとがもし，薩摩方言成立をうながした上記の音収縮を南洋の言語，すなわちマライ・ポリネシア系言語の特質であるかのように考えるならば，大きな誤りとおもう．上記の音収縮に類するものは，むしろモンゴル語やツングース系言語において見られるところである．ツングース系のラムート語をたとえばエヴェンキ語と比較すれば，上記の音収縮に類するものが見出される）．権左の記録する18世紀初めの薩摩方言でもすでに音収縮がいちじるしい程度に達していたことが知られるが，それでもなお，語末に立つにいたった子音の質は保存されている．彼の記録は「標準語」と現代薩摩方言とのまさに中間の段階をあらわすものであり，薩摩方言成立過程をあきらかにする上に従来のいずれの資料にもまさって貢献する．たとえば，鹿児島方言では逆接の接続助詞はいっぱんにドンであるが，権左では dom である．「友好会話集」の中の「遊び」という節の一部に，「呼んでおられるけれども」と訳せるロシア語を ёбардомъ ヨバルドム（yobardom）と訳している．「標準語」のドモと

現代薩摩方言ドンとの中間の形であることは疑いえない.

なお，ポルトガル語 sabão（スペイン語 jabón, フランス語 savon)「石鹸」からの借用語シャボンを最初に記録したのは権左であった．同じことは「ベンチ，腰かけ」を意味するバンコ（ポルトガル語 banco）についても言える．この事実はこれまでわが国で知られていなかった.

東条操氏は「方言研究小史」(『方言学概論』東京 1963 年に収む）の中で 18 世紀以前から 19 世紀はじめまでの方言学関係書目をあげている[6]．東条氏がこれを書かれたころは，権左の業績は日本ではもとより，ロシアでもほとんど知られていなかった．従って東条氏が「小史」の中で権左に触れなかったとしても不思議ではない．（権左の業績を世界で最初にとり

6）『日本の方言について注目すべき記載の見えるのはロドリゲス（Rodriguez）の日本大文典（1604 慶長九）を初めとする。邦人の著わした版本では安原貞室の「嘉多言（カタコト）」（1650 慶安三）が最も早い。これは片言直しの目的で京の訛りを集めたものである。越谷吾山の「物類称呼（諸国方言)」（1775 安永四）は年代は少し下がるが全国の俚言を類集した初めのものとして著聞している。この両人は俳人である。その外，十八世紀にできたものでは「仙台言葉」（1720 享保五），「尾張方言」（1748 寛延元）「浜荻」庄内（1767 明和四），「御国通辞」盛岡（1792 寛政二）等，各藩の学者の手になる稿本が伝えられている。十九世紀に入ると「幡多方言」（1817 文化十四），「浪花聞書」（1819 文政二）以下幕末までに書かれた俚言集の数は，稿本の残っているものだけでも十指にあまる。方言文学も安永・天明ごろから数をまし，化政度以後は京阪や地方の文人の手になる滑稽本，洒落本，郷土本に方言を写したものも少くない。中には「真女意題（シンメイダイ）」（1781 天明元）「下愚方言 鄙通辞（イナカ）」（1810 文化七）「烏哥話（カラスカワ）」（1821 文政四）のように書中にあらわれる俚言の表や説明を別に掲げたものさえ出た』（p. 4）

九州方言の書目解題はＮＨＫ(1969年)，pp. 605-623，pp. 676-696 にも見える。

これらのうちで「新スラヴ・日本語辞典」の中の薩摩方言が最もすぐれた資料である。吉町義雄氏の筆になるＮＨＫの「海外文献」の中で，権左の方言学的業績についての拙稿（「漂流民の言語」東京 1965 年，pp. 22-128）がまったくとりあげられていない（ＮＨＫ，p. 696 参照）のは残念である。吉町氏の原稿は 1965 年以前に書かれたものであろうか。

あげたのは，わたしがドイツで発表した下記論文である．Ueber die japanische Sprache der Göttinger Manuskripte. Nachrichten der Gesellschaft für Natur- und Völkerkunde Ostasiens/Hamburg, Heft 94, Dezember 1963).

18世紀，19世紀の日本方言資料のあいだにおいて「新スラヴ・日本語辞典」の日本語の部はもっとも重要な地位を占める．日本を出るとき無学だった薩摩青年はペテルブルグにおいて教育をうけて，日本方言にかんする重要な稿本をのこした点で，18～19世紀の日本のどの学者よりもまさっていた．

この薄幸の青年が18世紀前半にレニングラードに残した仕事を掘り出して，彼の同胞の前に紹介しうることは私の喜びである．

略号説明

B	東条操，分類方言辞典，東京1963年
cf.	confer＝比較参照せよ
DG	大槻文彦，大言海　新訂版初版東京1956年
DVLA	O. Dempwolff. Vergleichende Lautlehre des austronesischen Wortschatzes. Band III. Berlin/Hamburg 1938（デンプウォルフ，オーストロネシア語彙比較音韻論）
HH	原田種夫，博多方言，福岡1958年
JK	時代別国語大辞典　上代編，東京1967年
K	権左，項目別露日辞典（拙著，漂流民の言語，pp. 38-80）
KF	町田佐熊，鹿児島語と普通語（第7版）鹿児島1922年
KHJ	嶋戸貞良，鹿児島方言辞典，鹿児島1935年
KHK	九州方言学会編　九州方言の基礎的研究，東京1969年
KMK	上村孝二，九州・琉球方言の語彙　2　南九州。方言学講座 IV, pp. 78-108，東京1961年
MR	宮良当壮，九州・琉球方言の語彙　3 琉球。方言学講座 IV, pp. 109-138。
OKH	柳田国男編　野村伝四著　大隅肝属郡方言集，東京1942年
PFT	Е. Д. Поливанов. Формальные типы японских загадок. Петроград 1918. Е. Д. Поливанов. Статьи по общему

языкознанию. Москва 1968, pp. 306-309. ポリワーノフ，日本のなぞなぞの形式タイプ

S 薩摩（権左の場合，サツマとは現在の鹿児島市を意味したと見られる

SSD Schwartz. A Survey of the Satsuma Dialect（1913年 鹿児島，第七高等学校において，という序文あり）
The Transactions of the Asiatic Society of Japan. Vol. XXXXIII.

YKK 吉町義雄，九州・琉球方言の語彙 I 北九州，方言学講座 IV，pp. 44-77。

Z 東条操，全国方言辞典，東京 1951 年

凡　　例

1. 権左が薩摩語を書きあらわすために用いているキリル字（ロシア字）は本論文ではつぎのように配列した。参考のため括弧内にローマ字を入れておく）

а (a)	р (r)
б (b)	с (s)
в (v)	т (t)
г (g)	у (u)
д (d)	ф (f)
е (je，子音字の後では e)。	х (x)
ѣ (ě)	ц (c)
ж (ʒ)	ч (č)
з (z)	ш (š)
и (i)	ъ（先行子音の非口蓋化音なることを示す）
й (j)	ы (ï) ポリワーノフはɯでうつす
к (k)	ь（’ 子音の口蓋化を示す）
м (m)	ïó (jo)
н (n)	ю (ju)
о (o)	я (ja)
п (p)	

（ъ が音節末，語末に来たときは語の配列上 ъ の存在を無視する）

2. 権左はジ（жи）とヂ（джи）とを，またズ（з, зу）とヅ（дз, дзу）とを厳密に区別しているので，その区別を忠実に再現した。この点，東条操編全国方言辞典の表記のしかたと異なっている。そこではジとヂ，ズとヅとは区別されず，ジ，ズに統一されている。

3. 「新スラヴ．日本語辞典」ではロシア語を見出し語に出し，それに日本語をつける形式をとっているが，ここでは日本語を見出し語に出し，それに対するロシア語の日本訳を示し，比較資料をあげることにした。

薩摩方言単語リスト

原　文	片カナ転写	ロシア語の訳	Zおよびその他
авабукъ	アワブク	泡沫	Zになし アウェナル「泡になる」，アウェナス「泡になす」から見てアワもあったことが明らか．
аварашунасъ	アワラシュナス	柔らかくする	
аварашунаскотъ	アワラシュナスコッ	柔らかくすること	
аварашунетат	アワラシュネタッ	柔らかくなりたる	Zになし
адо	アド	踵（かかと）	**Z　あど** 踵．かかと．九州(物類称呼)・九州・南島
азанандо	アザナンド	発疹（複数）	**Z　あざ**　(1) 痘痕．あばた．千葉県山武郡，愛媛県新居郡．(2) ほくろ．黒子．盛国（御国通辞）・筑後久留米(はまおき)・岩手県紫波郡・秋田県雄勝郡・佐渡・兵庫県揖保郡・島根・香川・愛媛・九州．アザは薩摩では 18 世紀はじめには「発疹」の意味を持っていたのではなかろうか．
акоъкро	アコクロ	夕やけ	**Z　あこーくろ**　夕方．夕暮．熊本・宮崎・沖縄 **KMK** には『「薄暮」のことをいうならば，いろいろ言い方があるが，アコクロ・アカクロンモトなどは面白く，肥後南部から薩隅の処々で聞かれる』と述べてある（p. 106）．

аконекотъ	アコネコッ	明るくないこと	**Z あかい** 明るい．大坂（浪花聞書）．近畿以西 権左は日本語本来のエ列音の母音をロシア字ѣであらわし，アイ，アエの収縮の結果生じた母音をｅで表わししいる．アコネはアコナイにさかのぼる．
амáръ	アマル	いたずらをする	**Z あまる** さわぐ．あばれる．いたずらする．肥後菊池郡（俗言考）・九州
аматтáтъ	アマッタッ	狂暴な	**Z** になし
аметакотъ	アメタコッ	不幸	
аметамѣсуръ	アメタメスル	不幸に出あう	
анафóгасъ	アナフォガス	穴をあける	**Z ほがす** 穴をあける．うがつ．九州（日葡辞書）・山口県豊浦郡・九州．**Z** になし cf. **KHJ** アニョ 兄 下流家庭にていう．
анїõ	アニョ	子守，養育者	
анїõсуръ	アニョスル	養育する	
аракѣнкотъ	アラケンコッ	広々とした所	**Z あらけ** (1) 田園の広々とした所 宮崎市外．(2) 郊外 鹿児島
атосаме	アトサメ	後ろへ	**Z さめ** に．へ．「学校サメ行った」壱岐・佐賀・鹿児島．サメのメの母音がｅであることはサマイ＜サマ・ニであることを物語っている．サマは名詞について方向の意をつけ加える古

原　文	片カナ転写	ロシア語の訳	Zおよびその他
			代日本語接尾辞サと同源である．JK には万4132の「縦佐(タタサ)にもかにも横佐(ヨコサ)も奴とぞ我(アレ)はありける主(ヌシ)と殿とに」の例をあげ，サカサの語尾サも同じものである，となし，様はサに接尾語マが接した語であり，様子・状態の意と同時に方向の意をもちうることが指摘されている．このサは東北方言の，方向を示す接尾辞サとも同一である．
ácай	アサイ	砂州	**Z** あさり　浅瀬．種子島．薩摩方言では18世紀前半に *i* の前の *r* はすでに消えていた．
афиръ	アフィル	蛭	**Z, KHJ, OKH** になし
ашнофара	アシノファラ	足の裏	**Z** あしのはら　あしのうら　九州
баба	ババ	街路	**Z** ばば　通り．街道．長崎・鹿児島
		(товорбаба トヲルババ「通る街路」の)	
бакь	バキ	伯母	**Z** ばっき　伯母．おば．宮崎県椎葉
бакьнотъ	バキノッ	伯母の	**KHJ** になし
бйкь	ビキ	蛙	**Z** びき　蛙　盛岡(御国通辞)・西国（物類称呼）・青森・岐阜県揖斐郡・三重県南牟婁郡・奈良県吉野郡・和歌山県東牟婁郡・徳島・愛媛・九州

			KHJ になし
бобо	ボボ	陰門	**Z** になし　**KHJ** になし
бобоши	ボボシ	いたずらっ子	**Z** になし　**KHJ** になし
бωбра	ボブラ	かぼちゃ	**Z**　ぼーぶら→ぼぶら　南瓜．かぼちゃ　大坂（物類称呼）・九州（筑紫方言）・筑後久留米（はまおき）・肥前（重訂本草）その他
бой	ボイ	いなご	**Z**　ぼい　蜻蛉．とんぼ．宮崎県西諸県郡・鹿児島・屋久島
бокто	ボクト	棒，杖，棍棒	**Z**　ぼくとー　棒．棒きれ．長野県北安曇郡・福井県大野郡・三重県南牟婁郡・奈良・和歌山・愛媛・高知・大分県日田郡・宮崎県都城・壱岐・対馬．**KHJ**　ボット
бокуй	ボクイ	短・半長靴	**Z**　ぼくり　(1) 高下駄．あしだ．仙台（浜荻）・関西及び西国（物類称呼）・筑後久留米（はまおき）・津軽・愛知県碧海郡・高知・熊本県宇土郡．(2) 下駄の総称．中国（物類称呼）・広島県安芸郡・高知・長崎県北松浦郡・熊本．
бонба	ボンバ	ポンプ	**Z** になし
бонóкдо	ボノクド	うなじ	**B**　後頸の窪み　ぼんのくど　相模（国誌） ポリワーノフは「日本の なぞなぞの 形式的タイ

原　文	片カナ転写	ロシア語の訳	Z およびその他
			プ」(1918年) (**PFT** p. 306-307) において，熊本出身者からきいた次のカンガエモノを挙げている．クド・ワ　クド・バッテン，タカン・クドナーニ「クド（かまど）はクドでも，焚かぬクドは何か」．答「ボノクド（うなじ）」　**KHJ** ボノッド
боттъсур	ボットスル	炎々と燃える	**Z** になし
бто̀	ブト	ぶよ	**Z** になし　**KHJ** になし
бунбунни	ブンブンニ	詳しく，全面的に	**Z**　ぶんぶん　充満のさま．滋賀県神崎郡．**KHJ** になし
буеннъ	ブイェン	新鮮な	**Z**　ぶえん（無塩の意）生魚．岩手・佐渡・茨城県久慈郡・静岡・岐阜県吉城郡・奈良・和歌山・淡路島・岡山・島根県那賀郡・山口・四国・九州 **KHJ** ブエン　生魚
бунниваке̂нтъ	ブンニワケンッ	分解していない	**Z**　ぶん　別「ブンにしておく」盛岡(御国通辞)・出羽(俚言集覧)・秋田県平鹿郡・山形県村山地方・岩手県紫波郡・宮城・福島・新潟・福井県南条郡・静岡・壱岐・熊本県南関・鹿児島県肝属郡 **OKH** (p. 42)　ブンニナル　別々になる．

бу́чное	ブチノイェ	鞭の柄	**Z** ぶち（打の意）鞭．むち．京(片言)・丹波(丹波通辞)・岡山県浅口郡・徳島・大分・福岡県糟屋郡．**KHJ** ブツ　鞭
варабѣ́ясъ	ワラベオヤス	子供を世話する	
варабѣ́ясфто	ワラベオヤスフト（童おやす人）	子供を世話する人	**Z** おやす　養育する．鹿児島県肝属郡〔大隅半島〕 **KHJ** オヤス　養育する **OKH** コドンオヤシ　育児
ва́са	ワサ	ひも，縄，輪索（ひもなどを輪にして両端を結んだもの），絞めつける縄	**Z** わさ　わなの一種．高知・熊本県南関・鹿児島県肝属郡．**KHJ** になし
ваякъ	ワヤク	嘲弄	**Z** わやく　じょうだん．いたずら．乱暴．「子供がワヤクをして困る」千葉県 君津郡・愛知・富山・石川・福井・三重・岡山・鳥取・島根・山口・四国・九州．**KHJ** ワヤク　冗談　？和楽
ваяксуръ	ワヤクスル	嘲弄する	
ваякъсурфто	ワヤクスルフト	嘲弄者	
всуръ	フスル	補綴（つぎ）を当てる，縫いこむ	**Z** ふする　つくろう．破れを繕う．「着物をフスル」九州（日葡辞書）・佐賀県藤津郡．**KHJ** になし
вто́накотъ	フトナコッ	高慢	**Z** ふとーもの　横着者．大分・福岡．

原　文	片カナ転写	ロシア語の訳	Z およびその他
вчекотъ	フチェコッ	煽動する	**Z** ふてこつ　長上に対する口ごたえ．鹿児島
вчекотъюфто	フチェコッユフト	煽動者	権左はテという音節を，ほとんどあらゆる場合にチェとしあらわしてている． **KHJ** フテコッ　目上ニ向ッテ言ヒサカラフコト．
вше	フシェ	着物のつくろい，縫いつけること，縫いつけたもの	**Z** ふせ　(1) 着物の繕い．九州（日葡辞書）．大分・対馬．(2) 衣服にあてるつぎ．小布片．対馬・鹿児島県肝属郡．
гава́ппа	ガワッパ	悪魔	**Z** がわっぱ　河童．かっぱ　長崎・熊本・宝島・奄美大島．**KHJ** ガラッパ河童　カッパの訛 **KMK** には「南九州では「河童」のことをガラッパ・ガッパというのが多いが，薩摩南端部や東諸県地方ではカワノヒトと呼んだものである」（p. 107）と述べるが，18 世紀はじめには薩摩でガワッパであったことがわかる．ガラッパ，ガッパともにガワッパからの変化であるまいか．
гаръ	ガル	叱る	**Z** がる　叱る　筑後久留米（はまおき）・九州． **KHJ** ガラレタ／ガラエタ } 叱ラレタ
ге́кѣ	ゲケ	咳	**Z** がいけ→がいき (1) 咳気．風邪．静岡県周知

郡・岡山・徳島県海部郡・長崎県諫早．がえけ筑後久留米（はまおき）．（2）カタル．加答児．九州（日葡辞書）．第1音節の母音は e であるから，ゲケはガイケにさかのぼることが明らかである．**K** にもある．**KHJ** になし **SSD** *geke～geki* catching cold **OKH** (p. 44) ゲッガツク 風邪にかかる．……咳気から来た語．

гененъ	ゲネン	召使，下男
гененнотъ	ゲネンノッ	下男の
когененъ	コゲネン	小さな下男
cf. гежо	ケジョ	下女
гожемкѐ	コジェムケ	結婚
гожемкéнтъ	コジェムケンッ	結婚の

Z になし **KHJ** になし

Z ごぜむかい 婚礼．嫁入り．薩摩(物類称呼)・鹿児島．**KHJ** ゴゼンケ 婚礼，御前迎ヒ（古語）ゴゼンムカヒ

SSD *gozenke～gozunke* marriage

гокъ	ゴク	穀物
гокнокваше	ゴクノクヮシェ	捏粉

Z ごく穀物．米．秋田県鹿角郡・岩手県上閉伊郡・岡山．

原　文	片カナ転写	ロシア語の訳	Z およびその他
гоше	ゴシェ	女奴隷，婢	**Z**　ごせ　御新造．おかみさん．八丈島（八丈島記）　**KHJ** になし
го́ншуннъ	ゴンシュン	愚者	
гоншунтъ	ゴンシュンッ	白痴の	
гоншусуръ	ゴンシュスル	痴行を演ずる	**Z** になし　**KHJ** になし
дакма	ダクマ	えび	**B**　だくま　川えび　鹿児島　**KHJ** ダツマエッ（ダンマエツ）河蝦ノ大ナルモノ　ダキマエ（抱前）エビ？
да́мма	ダンマ	牝馬	**Z**　だんま→だうま．牝馬　南部・岩手・宮城・山形県村山地方……宮崎・鹿児島　**KHJ** ダンマ　牝馬　駄馬の転
да́нгвы	ダンギィ	棒杭	**Z** になし　**KHJ** になし　**OKH** (p. 204)　ダンギ　乱杭．河の岸に打った百本杭．ラの音は屢　ダと発音する．大言海に曰く：らんぐひ　乱杙　杙ヲ，次第ヲミダシテ，繁ク地ニ打込ミタルモノ．縄ヲ張リテ，敵ノ進入ヲ妨グル用トナス．盛衰記三十五，高綱渡二宇治河一事「河ノ底ニ入リ，ヤヤ久シク沈ミクグリテ，乱杙，逆茂木引落シ，云云」
даръ	ダル	疲労する	

даркотъ	ダルコッ	疲れ	
дачче	ダッチェ	労れて	
дарантъ	ダランッ	疲れなかったところの	
даттатъ	ダッタッ	疲れたる	**Z** だる　くたびれる．疲労する．豊前（俚言増補）・肥後菊池郡（俗言考）・岡山・山口・大分・福岡．**KHJ** ダルイ　疲レル　ダルル（イ）
даша	ダシャ＜ラシャ	羅紗	
де́нгобонѣ	デンゴボネ	のどぼとけ	**Z** になし　**KHJ** になし
день	デニ	＜代に……のため	коно день　コノデニ　このために конодень́насъ　コノデニナス　養子にする конодень́торкотъ　コノデニトルコッ　養子にすること
			Z になし
джекуръ	ヂェクル	果物が熟する	
джекуркотъ	ヂェクルコッ	熟すこと	
джекетатъ	ヂェケタッ	熟したる	**Z** になし
джида	ヂダ	土，土地	**Z** じだ　地面．地べた．愛知・美濃・長崎県千々石・壱岐・熊本・宮崎県都城・鹿児島・南島．**KHJ** ヂダ　地面

原　文	片カナ転写	ロシア語の訳	Z およびその他
дзубыиръ	ヅビィイル	這いこむ	**Z** ずぶ　這ふ．腹ばう．「足が汚ないからズンで行け」愛媛県南部・高地．**KHJ** スブ　這フ　素這フ　接頭語 ス　ブ バフ
дзу́моръ	ヅモル	どもる	
дзумои	ヅモイ	どもる人	
дзуморкотъ	ヅモルコッ	どもること	**Z** になし　**KHJ** ヅモイ　吃ドモリ（ヅ イ）
дзу́ркотъ	ヅルコッ	出る事	
до́ннакотъ	ドンナコッ	愚かさ	**Z**　どんな　馬鹿な．不調法な．高知・大分・宮崎県高千穂．
до́фю	ドフィユ	しゃっくり	**Z**　どひゅ　おくび．げっぷ．鹿児島県肝属郡．
дофюсуръ	ドフィユスル	おくびする	
дофюсуркотъ	ドフィユスルコト	おくび	**K** では「おくび」となっている．**KHJ** ドヘ　反吐（汚物を吐くにあらず胃よりの瓦斯を逆上して口より出すをいふ）吐庇？
ебо́шъ	イェボシ	雄鶏のとさか	**Z**　えぼし　鶏冠．とさか．鳥取・石見・山口・大分・宮崎・鹿児島．**KHJ** エボシ，ヨボシ　鶏冠烏帽子ノ意

екъре	イェクレ	酔っぱらい	**Z** よいぐらい 酒狂人．薩摩（物類称呼）イェクレはヨイクライからの発達形である．物類称呼はクライの連濁形を示しているが，権左の資料では連濁が生じていない．*oi*>*e*; *ai*>*e* **KHJ** エクレボ 酔漢
е́носора	イェノソラ	屋根	**Z** そら 頂上．和歌山県西牟婁郡
фто́цъеносорантъ	フトツイェノソランッ	ひとつ屋根の	**KHJ, OKH** エノソラ 屋根 イ(ヱ)エノソラ(空上)
енту	イェントゥ<遠島	流刑	
ентуньяр	イェントゥニヤル	流刑にする	
ентуньавъ	イェントゥニアウ	流刑に処せられる	
ентунтъ	イェントゥンッ	流刑の	
ентуньярфто	イェントゥニヤルフト	流刑に処する人	**Z** になし **KHJ** になし
жи́мь	ジミ	ろうそくのしん	**Z** じみ 燈心．ランプのしん．九州（筑紫方言）・愛媛県新居郡・山口県豊浦郡・大分・佐賀県藤津郡・長崎・壱岐・鹿児島県種子島・南島喜界島 **KHJ** になし
зашшо	ザッショ	贈物，賄路	
за́шшосур	ザッショスル	贈る	**Z** ざっしょー (1) 祝儀の贈物．進物．佐賀・鹿児島．(2) 結納．鹿児島県種子島．

原　文	片カナ転写	ロシア語の訳
зуве	ズウェ	樹枝
ка́шнозве	カシノズウェ	樫の枝
ибьганѣ	イビガネ	指輪
иво	イヲ	魚

Z およびその他

SSD *zassho* a present　**KMK** (p. 93)『「贈物」の意のザッショ・ザッソという語が薩隅方言で行なわれ,……一般に新築の際に隣家からの贈物することであるが,　ある処では新年の贈物でもある．種子島ではザッショーと発音し，新築とか旅行帰りの祝に米と餅を贈ることであったり，単なる「手土産」のことでもある．また「結納」を意味することもあるらしい．　この語は平安時代の「雑掌」がもとで，室町時代の頃は饗応・御馳走の意味に使われるようになった　(「天草本伊曽保物語」)．その語が今日違った意味で方言に残っているのである．』

Z　すえ　枝．三重県飯南郡．**KHJ** になし

Z　いびがね　指輪．南島(八重垣)・中国地方・九州．**KHJ** イッガネ　指輪，指金ノ意

B いお　大きな魚　対馬．　**JK** によれば　神代紀下の「大小之魚」の魚は「いをドモ」と読まれ

新撰字鏡享和本には「釣 伊乎豆留（いをつる）」とあり，和名抄には「魚 宇乎（ウヲ），俗云 伊乎（イヲ）」とある．iwo は俗語，uwoが正しい形と見られて来たようである．DVLA Ⅲ，p.70は「魚」をあらわすオーストロネシア基語形を *ivak として再構成する(DVLAの形をやや簡略化して示す)．インドネシア系ジャワ語の *iwa*「魚」，ポリネシア系 *fa|iva*「魚捕り」参照．日本語がこれと起源的に関係のあることは疑われない．日本語の第2音節母音は基語形の語末子音の消滅と関係があるかもしれない．

KHJ イヲ　魚

имодосъ	イモドス＜言い戻す	答える	
имодоскотъ	イモドスコッ	返事	
имодосфто	イモドスフト	返答者	**Z** になし　**KHJ** になし
инагò	イナゴ	小さな雌馬	**Z** になし　**K HJ** になし
ирае	イライェ	強壮，元気	
ираетатъ	イライェタッ	強壮な，堂々たる	
ираечь	イライェチ	強壮に，元気に	**Z** になし　**KHJ** になし
ирко	イルコ	鱗	

原　文	片カナ転写	ロシア語の訳	Z およびその他
ки́нноирконтъ	キンノイルコンッ	金の鱗の	**Z** いらこ　鱗，うろこ．静岡県川根地方・鹿児島県肝属郡．
и́рь(ír′)	イリ	ねじ錐	**Z**　いり　錐．きり．南島(八重垣)・九州南部． **OKH** イリ　錐　**KHJ** イイ　錐 権左では「蟻(アリ)」が ай アイ，「守(マブリ)」が ма́буй マブイ，「鳥(トリ)」が тои トイ，「針(ヘリ)」が фа́й ファイ，「槍(ヤリ)」が яй ヤイとしてあらわされているが，他方，「霧(キリ)」が киръ (kir′)，「臀(シリ)」が ши́рь(sir′)，「釣針(ツリバリ)」が цурбаи (tsurbai) として表わされている．なお cf.「漂流民の言語」p. 34.
иссуръ	イッスル	まき散らす	
иссуркотъ	イッスルコッ	まき散らすこと	
ишшетатъ	イッシェタッ	まき散らしたる	**Z** になし **KHJ** のイッスイ　捨てる　がこれに当るか
иттоюне	イットユネ	それほど良くない	**Z**　いっとー　それほどに．あまり．「イットーいたずらするな」九州（日葡辞書）ユネ *yune*<*you nai*<*yoku nai* 卑見によれば，ヨクは本来は *yogu* であった（*yogu* という形は東北地方に行なわれ

ていることは周知のとおりであるが，今夏（1970年）長野県野尻湖ホテルにおける「クリルタイ」に参加したとき，松本出身の池上二良教授から，それが長野県の一部にも行なわれていることを聞いた．**KHJ** になし

и́ччь ĩõкатъ	イッチ　ヨカッ	最もよい
и́ччь комакатъ	イッチ　コマカッ	最も小さい
иччь шеншонашъ	イッチシェンショナシ	最も純朴な
и〔ч〕чь ичбанъ	イッチ　イチバン	一番すぐれた
иччье	イッチェ	特に

Z　いっち　最も．いちばん　福島県若松・新潟県中魚沼郡・群馬県吾妻郡・中部以西各地．**HH**「いっち　第一の義．「イッチ大切なもんバイ」このイッチについて **DG** に曰く，「いッち（副）逸……最（イト）．モットモ．」……『いち（接頭）いちじるしモ最著（イトシル）しナルベシ．……案ズルニ，優（スグ）レタル意ニテ，一（イッ）ナルベキカトモ思ハレ，又普通ニ用ヒラルル逸（イッ）ノ字モ呉音ハ，いちナリ，（一（イッ），いち）……然レドモ，上代ニモ見ユル語ナレバ，漢字音ヲ混ズベキニアラズ〕最モ逸（スグ）レタル意ヲ云フ語．後世ハ，いっちトモ云フ．……「いち速シ」いち著シ

原　文	片カナ転写	ロシア語の訳	Z およびその他
			いち先(サキ)=」」 **DG** は *iti* を *itö* と同源と見る．*itö* は *ita* と同源であり，*p*|*ita*（頓）（cf. ヒタ・ムキ，ヒタ・スラ）および *p*|*itö*「1」（cf. *p*|*ita-ri*「一人」）とも同源である．**DG** がイッチ＜イチを漢語イチ「一」と見なかったのは卓見である．
ка́гѣ	カゲ	守り	**Z** かげ　おかげ．「ひと休みしたカゲにすっかり疲れがなおった」隠岐島．
кадо	カド	燧石	**Z**　かど→かどいし　燧石．ひうち石．九州（日葡辞書）・筑後久留米（はまおき）・南島喜界島．**OKH** ヒウチカド　燧石
какажи́ръ	カカジル	搔く	**Z**　かかじる　引っかく．大分・宮崎・熊本・鹿児島．**KHJ** カカジイ　搔ク
камикасъ	カミカス	聖油を塗る，剃髪する．（任命者が被任者の頭に手をのせて）僧位を授ける．	**Z** かす　水につける．ひたす．「大豆をカシておけ」和歌山・徳島県美馬郡・愛媛県松山・石見・大分．カミカスは頭を水につける意であろう．
камьсабакъ	カミサバク	髪を梳る	**Z**　さばく　髪を梳る．長崎・対馬・佐賀県唐津・熊本県天草島．**KHJ** になし

ка́нджа	カンヂヤ	鍛冶屋	筆者の郷里は茨城県最北の海岸の漁村であるが，少年のころカンヂャということばを用いていたので，ここにしるす． **Z, B** になし．大言海によれば，カヂは「古言，金打ノ略」である．
канѣ́нъсуджь	カネンスヂ	鉱石	
суджьфорфто	スヂフォルフト	鉱石を掘る人	**Z** になし
канзуркотъ	カンズルコッ	算えること	**B** かんぜる 数える．大阪 **KHJ** になし
кано́шишъ	カノシシ	鹿	**Z** かのしし 鹿 仙台・石川県能美郡・奈良・香川県小豆島・徳島県美馬郡・高知・福岡県粕谷郡・熊本・宮崎・鹿児島・種子島．**KHJ** カノシシ 鹿
ка́пширъ	カプシル	嚙みくだく，かじる	**Z** かぶしる 食い取る．かじる．宮崎県都城・鹿児島県肝属郡．
карушко	カルシコ	羈絆，負担	**Z** になし **KHJ** カル 負フ cf. шко シコ
катакотъ	カタコト	反駁	**Z** かたこと 人の親切などを頑固に拒むさま．かたくな．「カタコトな人だ」青森・秋田県鹿角郡・宮城 **KHJ** になし
катакотъю	カタコトユ	反駁する	
ка́тшно абра	カタシノアブラ	聖油（勤行用のオリーヴ油）	**Z** かたし→かたち (1) 椿の実．石見・山口・南伊予・大分・宮崎・長崎・鹿児島．(2) 椿．石見・淡路島・徳島・高知・長崎県五島・宮崎・鹿

原　文	片カナ転写	ロシア語の訳	Z およびその他
			児島・奄美大島. **YKK** には「九州では『カタイシ』『カテシ』ともいう.『堅石』だろう」と述べられている. p.50. **KHJ** カタシ　椿　堅石の意. 椿の実.
катáшно кѝ	カタシノキ	油の木	
каттошу	カットシュ	順々に	**Z** かっとしゅー　次から次へ. 連続的に.「カットシュー病人ばっかりだ」熊本・鹿児島. **KHJ** カットシュ　片ッ端カラ
каясъ	カヤス	身をもちくずさせる	**Z** になし
каяскотъ	カヤスコッ	身をもちくずすこと	
каясфто	カヤスフト	堕落にさそう人	cf. **KHJ** カヤス　裏表ニ返ス
кекъ сычь ор	ケク　スイチオル	(友好会話集)	**Z** かいこ　休業日　石川県能美郡. **Z** かきごと
	(<カイコ好いて居る)	何もしないで休んでいる	祝事で業を休む事. 茨城県久慈郡.
кѣн	ケン　читтокѣнкїо	チットケンキョ参照	
кѣнкїо	ケンキョ	高慢	**Z** になし　**KHJ** になし
кѣнкїосуръ	ケンキョスル	高慢である, 見栄をはる	
кѣнкїомонъ	ケンキョモン	高慢な者	
кѣмацъюръ	ケマツユル	つまずく	**Z** けまつるる　つまずく　長崎・熊本. **KHJ**

кѣмацъюркотъ	ケマツユルコッ	つまずくこと	になし
кѣннъ	ケン	動物のはり	
кѣнн мугно	ケン　ムグノ	籾殻	**Z** けん　(1) 鶏の蹴爪．茨城県稲敷郡 (2) はり「蜂のケン」「サボテンのケン」鹿児島県谷山
ке́шинме	ケシンメ	着物を裏がえしに	**Z** けしんめ→かえさま　裏返し．鹿児島．第1，第3音節の *e* から見て，カエシンマエからの発達がわかる．**KHJ** ケシンメ（カエシンメ）裏返　カエサマニ（イ）—ケシンメ（古語）**SSD** *sakashimme* upside down
ки́гафацдзуръ	キガファツヅル	驚嘆する	**Z** になし　**KHJ** になし
кимоиръ	キモイル	配慮する，助力する	
кимоиркотъ	キモイルコッ	配慮，援助	**Z** きもいる　周旋する．優待する．「たいへんキモイッテくれた」長野県西筑摩郡　**KHJ** キモイイ　世話ヲスル　肝煎ルの意
кимокр	キモクル	模倣する	
кї́мокркотъ	キモクルコッ	模倣すること	
кимокрфто	キモクルフト	模倣する人	**Z** になし　**KHJ** になし
киноцупса	キノツプサ	木の切株	**Z** つっさ　木の切株．鹿児島県肝属郡．cf. цубса ツブサ　切株．　**KHJ** になし

原　文	片カナ転写	ロシア語の訳	Z およびその他
кинсонсуръ	キンソンスル	治療する	
кинсонсуркотъ	キンソンスルコッ	治療すること	**Z** になし　**KHJ** になし
ки́чнѣ	キチネ	狐	**Z** になし　**KHJ** になし
кмо	クモ	天	
кмонтъ	クモンッ	天の	
кмо́нштa	クモンシタ（雲ん下）	世界，宇宙	
кмонъ-учнотъ	クモンウチノッ	全世界の，宇宙の	**Z**　くも　天．空．大阪府南河内郡・兵庫県養父郡　**KHJ** になし
кмонъкронтъ	クモンクロンッ	天球の	**Z**　くろ　ふち．へり．すみ．茨城県稲敷郡・山梨・静岡・愛知・岐阜・三重県員弁郡・大分・熊本．небошарный「天球の」というロシア語をこのように訳したのは相当の苦心である．
кобъ	コブ＜？*kompu	蜘蛛	**Z** こぶ　蜘蛛　九州(筑紫方言)・九州．OKH(p. 87) コブ　蜘蛛　KHJ コツ　蜘蛛　沖縄 kubu, ku:ba:　日本語のクモについて，ポリワーノフ氏は1925年ころ書かれた「日本語語源辞典についての暫定報告」(「東洋学諸問題」誌1960年第3号．東京，代々木の日ソ図書館にこの雑誌があ

る）のなかで，つぎのように述べている．

「kumo「蜘蛛」．朝鮮語では kʌmu（日本語・朝鮮語間で子音 k, m が対応することは，とくに朝鮮語 kom // 日本語 kuma「熊」，朝鮮語 kamɛ // 日本語 ka⌜ma「釜」などによって証明される），メラネシア諸語では kobu, gofu など．日本語の諸方言間の アクセント 対応は 雑然としている（たとえば京都 kumô．長崎は期待される末上り（オクシトン）型でなく末下り（バリトン）型 ko⌞bu）．こういうわけで，どの語源解釈をとってよいか，選択が困難である．西日本方言と南日本方言との間の最初の母音 u // o の対応と 琉球語の ku: ba から見て，祖語形の両方の母音に鼻音が存在したと推定される．即ち *kompVN(？) とすれば，古い合成語であるかも知れない．朝鮮語 kʌmu と比較すべきものはその 第1項だけかもしれない」（論文の最後の部分）．中期朝鮮語の形は kəmïi（訓蒙字会による）．cf. 服部四郎『日本語の系統』, p. 328.

ポリワーノフは「メラネシア 諸 語 では kobu, gofu など」としているが，イサベル島のマハガ語（メラネシア系）では蜘蛛を gofe と言うが，

原　文	片カナ転写	ロシア語の訳	Z およびその他
			kobu という語形はメラネシア諸語に見えないようである．ポリワーノフはメラネシア語についての知識は H. C. von der Gabelentz, Die melanesischen Sprachen, Leipzig 1873 にたよっているが，わたしがこの本についてしらべたかぎりでは kobu は見出しえない．この本にはアピ島のセサケ語で kalumwe，バウロ島の言語で lawa と言うことが見えている． ついでながら，ポリワーノフの引用は出所を示していないことがあるので，不便である．たとえば，非常に重要な日本語オホ「大」について，これがポリネシア語 opo>apu ‖ afu「大」と同系と見るが，ポリネシア系のどの言語かを示していないのは残念である．ポリワーノフによれば，西日本語（アクセントの点で古形を保つ）「o_L:（長い o: の第1モラが高く，第2モラが低い）から，原始日本語の「$o_L$po が推定され，これがポリネシア〔基語〕の *opo* が *apu* ‖ *afu* に発達したことを説明する，と見る．

つまり，第1の高い *o* はその特徴的なトーンを高めて，*a* に変じ，第2の低い *o*（音節 *po* の）はその特徴的なトーンを低めて，*u* に変じたと見る．（ポリワーノフの1924年の論文，日本語の音楽的アクセントに関する研究について，注5．ポリワーノフ，一般言語学論集，モスクワ 1968年，p. 151．日本語に対してモラという術語を用いたのはポリワーノフが最初であろう．）ポリネシア語 *apu*～*afu*「大」がどの島の言語の形か示されていない．このようなことばが実在するとすればこれと日本語オホ「大」との関係をわたしはポリワーノフとちがって解釈する．オホは opo と転写すべきでない．「ワゴオホキミ」（我が大君）のゴが乙類であること，また有坂秀世氏の「音節結合の法則」から見て，*öpö* と転写すべきことばである．（この ö の音色は，ドイツ語やトルコ語の ö と似ているとおもうのは早計である．）ポリネシア基語形として *opo でなく，*apu を再構すべきであり，その発達形として，öpö を考えた方が合理的である（第2音節の狭い母音 u が語頭の広い母音に影響を与え，古代日本語乙類オ列音母音

原　文	片カナ転写	ロシア語の訳	Z およびその他

を生んだと見られる．この母音の起源はこれひとつだけではない）．これと似た発達は南島基語 *kaju‘「木」(**DVLA**, p. 72) の日本語におけるあらわれである．「木」は乙類キ kï, 合成語第1項では *kö*（コ・ダチ，コ・ヌレなど）である．*kaju‘ の第2音節の狭い母音 *u* は第1音節の広い母音に影響を与えて，乙類オ列音母音とし，ついで第2音節は *j* の影響で *ji* ＞ *i* ＞ *i̯* のような変化をとげ，*köi̯ が成立し合成語に入る場合，幹収縮（*i̯* の消滅）をおこして *kö* となり，合成語に入らない場合は öi̯ ＞ ïi̯ の発達があったと見られる．

ポリワーノフは同論文において，京都方言の *ki*「：「木」は *ka*「*ju* にさかのぼると見る（彼によればインドネシア系タガログ語の「木」は *ka*「*ju* であるが，これは正確でない）（前掲，p, 153）．L. Bloomfield, Tagalog texts with grammatical analysis, Part III. List of formations and glossary. Illinois 1917, p. 354 によれば「木」は káhoy であり，またタガログ・ロシア語辞典（モスクワ 1959 年）には kahoy「木」と

あり，これは paenultima（終りから二番目の音節）に弱いアクセントがある語（タガログ語で Malumay 型の語という）である．ポリワーノフの述べるところとちがっている．*kaju はタガログ語のように第1音節にアクセントがあったと見た方が，上記の音韻変化を説明しやすいと思う．なお，「年」tösi と「人」pitö とが合成語である可能性があり，（tö-si, pi-tö．後者は pi-ko「日・子」, pi-me「日・女」と同じく，「日・人」で tö が「人」を意味する可能性もある），それぞれ南島基語 *tahun「年，季節」（ジャワ，マライ語 taun），*tavu'「人」（タガログ tao「人」，ポリネシア系フトゥナ語 tau'「人物」）と比較できるかも知れない．

Z こわい 戸などのかたい． 島根県鹿足郡・鹿児島．

Z こぎ 柴木，そだ 京都府竹野郡・徳島県美馬郡・山口・周防大島．

Z こずみ (1) 盛った物．築いたもの．熊本県阿蘇郡 (2) いねこずみ．稲むら．大分・宮崎・肥後玉名郡． **KHJ** になし

ковакáтонтъ	コワカトンッ	頑丈な
ковунекотъ	コウネコッ	固くないこと
кóгь	コギ	小さな丸太
кóдзумь	コヅミ	堆積

原　文	片カナ転写	ロシア語の訳	Z およびその他
кóнасъ	コナス	つらくあたる，苦しめる，攻撃する	**Z** こなす (1) →みこなす．悪く言う．けなす．駿河（俚言増補）・大阪・ (2) いじめる．九州．**YKK** にはコナス「苛める」を北九州語で「意味が標準語と少し違う」例としてあげるが，その分布は北九州のみでない．**KHJ** コナス　懲ラス
кóнасфто	コナフト	苦しめる人	
конго	コンゴ	背の隆起，こぶ，小屈み	**Z** こんごー　猫背．せむし．山口．**KHJ** になし
конгонготъ	コンゴンノッ	背のまがった	
конгонтъ	コンゴンッ	同上	
кóнѣ	コネ	たてがみ	**Z** こね　たてがみ　熊本・宮崎．**KHJ** になし
коноджу	コノヂュ	この間	**Z** このじゅー　(1) この頃．山形県米沢・愛知県碧海郡．(2) このあいだ．常陸（常陸方言）・青森・佐渡・長野・奈良・長崎県五島．(3) 昔．熊本県五名郡．鹿児島県肝属郡．
косагъ	コサグ	削る	**Z** になし　cf. **KHJ** コサッダス　ツキ出ス　搔下　カキサク（コ）
коттеýшъ	コッテウシ	去勢牡牛	

коттеу́шнотъ	コッテウシノッ	去勢牛の	**Z** こってうし　牡牛．新潟・岐阜県養老郡・奈良・和歌山・大阪・京都・福井県敦賀・九州 **KHJ** コッテウシ　牡牛
кошкуръ	コシクル	凍りつく	**Z** こしくる　凍える．手足がかじかむ．福岡県三井郡・熊本県玉名郡．**KHJ** になし cf. фи́ккоясъ フィッコヤス
коясъ	コヤス		
кубиръ	クビル	結ぶ，結びつける，（むつきに）包む	**Z** くびる→きびる（1）くくる．縊る．「首をクビル」九州（日葡辞書）．（2）結ぶ．括る．愛媛県宇和島・高知県幡多郡・九州．
кугъ	クグ	すげ属（植物）	**Z** になし　**KHJ** になし
кунебъ	クネブ	橙（だいだい）	**Z** こがねくねぶ　橙．だいだい．南島（混効験集）**KHJ** クネッ　九年母
кцушек	キツシェク	大いに狭める	**Z** せく　戸障子を閉める．九州（日葡辞書）・筑前（望春随筆）・山口・九州．
ма́буй	マブイ	十字架	**Z** まぶり　たましい．霊魂．奄美大島 **KHJ** マブイ　守ル　*ri*＞*i*
манака	マナカ	便所	**Z** まなか　便所．雪隠．鹿児島・宝島・奄美大島．**KHJ** マナカ　便所　魔中？　間中？
мба	ンバ	老婆	**Z** になし　**KHJ** ンボ　老母

原　文	片カナ転写	ロシア語の訳	Z およびその他
мѣдачь	メダチ	若芽	**Z　めだち**　若芽.「山椒のメダチを摘む」高地・壱岐.　**KHJ** になし
мѣро	メロ	年頃の娘，売春婦	**Z　めろ**　下女.　女中.　宮崎・鹿児島.　**KHJ** メロ　下女.　女郎
мимнофа	ミムノファ	耳ぶた	**Z　みみのは**　耳.　耳朶.　九州（日葡辞書）・大分・佐賀・長崎県五島・熊本.　**KHJ**　ミンナバ　耳朶
мманъфнѣ	ンマンフネ	かいば桶	**Z　うまぶね→ふね**　馬に飼料を与える桶.　かいば桶.　富山県礪波地方.　ふね→こめぶね.　(1)→うまぶね.　馬のまぐさを入れる箱.　秋田県鹿角郡.　岩手県九戸郡.　富山・鹿児島県谷山.
музогаръ	ムゾガル	柔和である	**Z　むぞ－がる**　かわいがる　筑前（望春随筆）・筑後久留米（はまおき）・肥後菊池郡（俗言考）・大分・福岡・佐賀.　**むぞがる**　九州(筑紫方言)・九州.
музóгаркотъ	ムゾガルコッ	慈悲をたれること	музóгаркотъ の зó にアクセント印がついていることは，本来ムゾーガルコッであったことのなごりか.　ロシア語ではアクセントをになう母音はそうでない母音のほぼ1.5倍の長さである.

このことばについて**KMK**にはつぎのように述べてある．『…九州方言のムゾカは「無慚」から出て「あわれな」の意味と「かわいい」意味とに用いられるが，薩隅地方では，ムゾカ・ムゼは「かわいい」ことでありムゾナゲ・ムゾナゲナという形態が「かわいそう」ということである．また日向ではムゾラシが「かわいい」のであり，ムゾナギが「かわいそう」なのである．熊本地方では，ムゾカが「かわいそう」であり，ムゾラシカは「かわいい」という意味である．肥後の宇土郡ではムゾカが「かわいい」であるのに対して「ムゾー」は「かわいそう」である．阿蘇郡にもモゼー（かわいい）とムゾギー（かわいそう）が対立し，甑島ではミジョカ（かわいい）とミジョー（かわいそう）との対立がある．このようにもと同じことばが一方の形態を少しかえることによって両義に分かれることはいわゆる意味の分担である」(p. 102)

私は古代日本語**むがし**「心にかなう．喜ばしい」（およびそれにオ，ウという接頭辞のついた**うむがし**，**おむがし**「喜ばしい，うれしい」）からの

原　文	片カナ転写	ロシア語の訳	Z およびその他
			発達形ムゴイが諸地方によって「かわいらしい」の意味をもち（物類称呼によれば，上総房州四国・全国方言辞典は宮城県牡鹿郡・千葉をあげているが，30年ほど前，わたしは福島県猪苗代町出身の老人からそれを聞いた），他方，現代「標準語」をうつしている辞典，たとえば「岩波国語辞典」にはむごいに対して「(1) 悲惨だ．いたましい．(2) 残酷だ．無慈悲だ」の意味を示している．卑見によれば，古代語ムガシ muŋasi は *məŋat′i にさかのぼり，後者は *mə-ŋat′ih＜*mə-kat′ih から出発している．マライ・ポリネシア諸語比較音韻論をうちたてた Otto Dempwolff の「オーストロネシア語彙比較音韻論」(Vergleichende Lautlehre des austronesischen Wortschatzes. III. Band, Berlin/Hamburg 1938, p. 76) には，「愛着，親密」を示す南島基語形 ***kat′ih*** を示している．この基語形からの一発達形たるインドネシア語 ***kasih*** 「愛，愛着，好意」に confix ***ka……an*** がついた形 ***kasihan*** は「憐憫，悲哀」「不幸な，いたましい」の意味をもち，***mə-***がつ

いた形 *məŋasih* は「愛する，強烈に敬愛する，愛着を感ずる」の意味をもつ．
「無慚」から発達した諸形が「かわいい」と「かわいそう」という二つの意義に分化した現象は，かくして，古代語ムガシの発達形にも見られ，さらにそれと同起源と見られるインドネシア語 kasih とその派生語との間にも見られる．

ついでながら，日本語と南島語（オーストロネシア＝マライ・ポリネシア諸語）との比較研究はさいきん新しい段階に入った．以前は沖縄語の ti: da「太陽」が台湾アミ語のチラルと同系かいなかというような問題をめぐって日本語・南島語の比較が行なわれていたが，いまやこのような「偶然的」な比較から，より広汎な土台に立つ比較へと移りつつある．そこで MR が最初にとりあげているアヤ「父」なども問題となる．「アヤは日本語全体から見て，南北両端の地域で用いられている．即ち南部では石垣島（平民部落）・新城（あらぐすく）島などに用いられ，北部では青森県の浅瀬石（あせし）・孫内・野辺地などで用いられる．このアヤは吾父の原義から出て，親愛・尊敬の意

原　文	片カナ転写	ロシア語の訳	Z およびその他
			味に用いられているようである．またこの語は母音相通の法則にも適合し，アヤ・イヤ〔西表島・波照間島・与那国島〕，ウヤ〔宮古平良，下地〕といわれ，国語のオヤの本義を暗示するものである．四国の祖谷（いや）山は古記録には祖（いや）山と記されており，八重山方言では先祖を祖人（おやひと）〔uja-pïtu〕というが，何れも同源の語であろう」(MR, p. 112)．宮良氏は徳之島のアジャ，喜界島のアジャー，八重山の黒島のイヅァ idza, イザ，竹富島のイージャ，小浜島・鳩間島のアーヤ，西表島のイヤーその他多くの，アヤ「父」からの派生語をあげる．(MR, p. 113)．宮良氏の解釈の全部が正しいか否かということは多少問題であろうが，大体において正しい解釈とおもう．ただ，アヤは「吾父」の義である，つまり合成語と見られるわけであるが，ア「吾」はよいとして，ヤ「父」は証明できまい．アヤを合成語と見る考えは十分根拠があるであろうか．宮良氏はこのアヤ (aja) を，日本語以外の言語の「父」をあらわす単語と比較することは試みなかった．

			DVLA (p. 13) には，「父」をあらわす南島基語形として *'*ajah* (アヤ) を再構成している．その土台となったのは，インドネシア系のマライ語 *ayah*, ジャワ語 *y|ayah*, マダガスカル島のホーワ語 *r|ai'*「父」である．わたしは，宮良氏のあげるアヤおよびそのもろもろの異形は上記の *'*ajah* からの発達と見ることができるとおもう．
			KHJ ムゾカ　可愛イ　無憎クアリ
мукáба	ムカバ	前歯	**Z** むかば→むこーば　前歯．門歯．島根県邑智郡・広島県府中・鹿児島県肝属郡．
			KHJ ムカバ　向歯　ムカウバ
наворъ	ナヲル	移住する	**Z** なおる　転居する．長崎県五島・宮崎・鹿児島．**KHJ** になし　**OKH** (p. 27) ナオル　移転する．
наворкотъ	ナヲルコツ	移住	
навоттафто	ナヲッタフト	移住者	
наксамъ	ナクサム	対談する	**Z** になし　?**KHJ** ナッサムッ　慰メル
наксамнотъ	ナクサムノッ	対談	
намашкатъ	ナマシカッ	湿った，じめじめした	**Z** になし
намашунаръ	ナマシュナル	湿る，じめじめする	

原　文	片カナ転写	ロシア語の訳	Z およびその他
нананко	ナナンコ	女児	**Z** な　子守．京都府中郡　下女．女中．伊勢（倭訓栞）．徳島県美馬郡．嬰児．福井． **KHJ** になし
нарамь	ナラミ	ならび，列	**Z** ならめる　平坦にする．鹿児島県肝属郡．
нáръ	ナル	出来る	**Z** なる　出来る．「書キガナル」鹿児島県種子島・屋久島・口之永良部．
наякасъ	ナヤカス	曲げる，傾ける	**Z** なやす　傾ける．「首をナヤス」鹿児島県肝属郡．
нѣбуръ	ネブル	舐める	**Z** ねぶる　舐る．なめる．畿内（物類称呼）・大坂（浪花聞書）・岩手県九戸郡・伊豆八丈島・愛知・長野県下伊那郡・岐阜・石川県江沼郡・福井・近畿・鳥取・岡山・広島・山口・四国・九州． **KHJ** ネブイ　甜ル．ネブル
нѣнгоронкотъ	ネンゴロンコッ	親交	**Z** ねんごろ　情人．長野県下水内郡・鹿児島． **KHJ** ネンゴロ　情夫（婦）
нисѐ	ニセ	若者	**Z** にさい　青年．若い衆．長崎県五島・熊本・南島．第2音節の母音がeであるから，ニサイの発達であることがわかる．**KHJ** ニセ　青年 二才（若者の意）ニ$\overset{セ}{サ}$イ

原　文	片カナ転写	ロシア語の訳	Z およびその他
нодонко	ノドンコ	のどひこ	**Z** になし　**KHJ** になし
нонóко	ノノコ	カフタン（袖の長い農民外套）	**Z**　ののこ→ぬのこ　綿入の着物．上州（登古路言葉）・四国を除いて殆ど全国．**KHJ** ノノ　布
норо	ノロ	軟泥	**Z**　のろ　泥．どろ．筑後久留米（はまおき）．
норонтъ	ノロンッ	軟泥の	**KHJ** ノロ　泥．**SSD** *noru* mud
нумѣръ	ヌメル	すべってふみはずす	**Z**　ぬめる　すべる．鹿児島．
нумѣкуръ	ヌメクル	すべる	**KHJ**　ヌメイ　辷ル 日本語の *sūber*-「滑る」<*t'əmbVl(r)*-の「硬直的鼻音代償形としてヌメルが考えられる．マライ語 *sembul*<*t'əmbul*「這い出る，突出する」がこれと比較できるか．**SSD** *zumeru* / *zumekuru* } to slip
нусдо	ヌスド	盗人	**OKH**（p. 189）ヌスドゴロ　泥棒
нусдонтъ	ヌスドンッ	泥棒の	**KHJ** ヌスト～ヌスゾ　盗人
нусдосуръ	ヌスドスル	盗む	日葡　nusudo=nusubito「盗人」
нусдосурфто	ヌスドスルフト	盗人	
озóмъ	オゾム	目をさます	**Z**　おぞむ　目をさます．目がさめる．九州（日葡辞書）．薩摩肥前（物類称呼）・筑後久留米（はまおき）・九州．**KHJ** になし　**SSZ** *ozumu* to wake（覚むる）

原　文	片カナ転写	ロシア語の訳	Z およびその他
окуй	オクイ	出棺	**Z** おくり　葬式　香川県小豆島・島根・宮崎・鹿児島　**KHJ** オクイ　葬式
окуисуръ	オクイスル	葬る	
окуишентъ	オクイシェンッ	葬式をしないところの	
онджо	オンジョ	男の老人	**Z** おんじょ (1) 男の老人．熊本・宮崎・鹿児島 **KHJ** オンヂョ　老人　御上の意 **SSZ** *onjo* an old man
онокудзъ	オノクヅ	大麻，麻苧	**Z** になし
ороюкатъ	オロヨカッ	良くない	**Z** おろよい→おろい　よくない．悪い．備前及び筑紫（物類称呼）・筑後久留米（はまおき）・九州．**KHJ** オロイ〜オロエ　粗末
óскатъ	オスカッ	鈍感な，緩慢な	**Z** おそい　遅鈍．にぶい．肥後菊池郡（俗言考）・香川．
отогеншта	オトゲンシタ	顎	**Z** おとがい　顎．あご．盛岡（御国通辞）・大坂（浪花聞書）．おとがえ　仙台（浜荻）．第3音節の e<ai．オトゲはオトガイの発達形．シタ（下）としたのはロシア語の подбородок「顎」が「ひげの下」という構成なので，その影響によるものと見られる．

óчамонноть	オチャモンノッ	狡猾な，偽善的な	**Z** おちゃもーし　おべっか．追従．福島県南部 **KHJ** になし
оя́сфто	オヤスフト	養育者	**Z** おやす　養育する．鹿児島県肝属郡．
сабакъ	サバク		cf. камьсабакъ　カミサバク
саенъ	サイェン	庭園	**Z** さえん（菜園物の意）野菜．岩手県九戸郡・福島県信夫郡・山口・周防・大島・高知 **KHJ** サエン（薩）ソエン（隅）蔬菜園　菜園 **OKH** には　サエン　蔬菜園
косаенъ	コサイェン	小庭園	
сакаши	サカシ	健康である	**Z** さかしい　健やか．壮健．九州（日葡辞書）・筑後久留米（はまおき）・大分・長崎・対馬． **KHJ** になし　**SSD** *sakashika* skilful　これは上記のものと意味が異なる．
сакашикотъ	サカシコッ	健康	
сакикимоиръ	サキキモイル	優待する	**Z** きもいる　周旋する．優待する． cf. кимоиръ　キモイル　配慮する，助力する サキがキモイルについているのはロシア語 пред-подвизаюся の пред-「先」によって影響されたと見られる．
саманасъ	サマナス	冷やす	**Z** になし　**KHJ** になし
саманаскотъ	サマナスコッ	冷やすこと	
—саме	サメ	cf. атосаме	アトサメ　「後ろへ」

原　文	片カナ転写	ロシア語の訳	Z およびその他
сба	スバ	唇	
усба	ウスバ	大唇の	**Z** すば→つば　唇．宮崎県諸県郡・鹿児島・南島．**KHJ** スバ　唇
сгафогуръ	スガフォグル	孔があく	**Z** ほげる　穴があく．山口県豊浦郡・福岡・長崎県五島・熊本．ほぐる　九州（日葡辞書）．
скумонъ	スクモン	支えるもの，支柱	**Z** すける　(1) 垂れる水などを下で受ける．対馬・鹿児島県肝属郡．(2) 物を受け取る時に手を差出すこと．「物をやろうとすれば手をスケて待っている」対馬．(3) 物の下敷にする．敷く．「植木鉢の下に台をスケル」山口県玖珂郡・愛媛・高知．**KHJ** になし
скѣмонскуръ	スケモンスクル	支えをおく	
сóквынїъ	ソクィンッ	粘着材の	**Z** そくう　穴や隙間などを埋めて繕う．山口・高知・長崎・壱岐．**KHJ** になし
сóквыцкуръ	ソクィンツクル	糊，膠で付ける	
суракотъ	スラコト	寓言	**Z** すらごと　虚言．うそ．そらごと．山口県豊浦郡・大分・福岡・佐賀・長崎・熊本・鹿児島県種子島．すらごつ　筑後久留米（浜荻補足）・大分県日田郡・福岡県浮羽郡・壱岐・佐賀・熊本県玉名郡．**K** では сурагóтъ スラゴト　作り話．**KHJ** になし

сýõ	スヨ	凡て	**Z** **そーよー**　すべて．みんな　福岡・長崎． **そーよー**と　**スヨ**との対応から，**そーよー**が総様（ソウヤウ）であることがわかる．　スヨという語形がなかったなら，総様という決定はきわめて困難であろう．　**HH** (p. 58) には「そーよー(副)，総容（皆様の儀）より転じたものと思う．ことごとく」とある（現在，即ち1970年の博多方言では**そーよ**．即ち，**よ**はのばさない．）．これは **DG**「そうよう　総容　他ノ家族一同ヲ呼ブ語．（手紙ニ）「御総容様，御揃ヒ」」とある説に従ったのであろうか．しかし「容」ヨウは権左においてはユとしてあらわれるはずであるから，**そーよー**および**スヨ**は総様にさかのぼると見るべきである． **KHJ** になし
тамагаръ	タマガル	びっくりする	**Z** **たまがる**　びっくりする．驚く　筑後久留米（はまおき）・肥後菊池郡（俗言考）・薩摩（物類称呼）・大分・長崎県五島・宮崎・鹿児島． **KHJ** タマガツ　魂消ル
тамашгакикъ	タマシガキク	利口である	
тамашнокиканкотъ	タマシノキカンコッ	利口でない	
тамашнокитат	タマシノキタッ	利口な	**KF** (p. 116) タマシキキ　利口者

原　文	片カナ転写	ロシア語の訳	Z およびその他
ташнамъ	タシナム	大切に保存する	**Z** たしなむ (1) 大切にする. 高知県幡多郡 (2) 保存する. 貯える. 出雲・壱岐. (3) 惜む. 岐阜県恵那郡. (4) 慎む. 佐渡. **KHJ** になし
ташнаманкотъ	タシナマンコッ	不注意, 無頓着	
ташнамъонаго	タシナムオナゴ	保存者 (女)	
ташнамфто	タシナムフト	保存者	**OKH** (p. 41) タシナン　大事に貯へておく
ташнудже	タシヌヂェ	(たしなんで) 保存して	
тогаттакамь	トガッタカミ	尖った頭	**Z** かみ　頭 「カミが打つ(頭痛がする)」石川県河北郡・大分・宮崎.
тоетатъ	トイェタッ	静かな	**Z** とえる　風がやむ　岩手県釜石　**KHJ** になし
тоженнака	トジェンナカ	つまらない, 淋しい	**Z** とぜんない　さびしい.　無聊.　筑後久留米 (はまおき)・青森県三戸郡・高知. とぜんね　宮崎・鹿児島. とぜんなか　佐賀・長崎・熊本・宮崎・鹿児島. **KHJ** トゼンネ　淋シイ—徒然ナイ(ネ) Zになし　**OKH** (p. 37) トイアツメル　整頓する
тоженнетъ	トジェンネッ	つまらない, 淋しい	
тоженнекотъ	トジェンネコッ	つまらないこと, 淋しいこと	
тоїяцмуръ	トイヤツムル	取り集める, 収穫する	
тóймавасъ	トイマワス	ひったくる	**Z** とりまわす　なぐりつける　徳島県美馬郡. **KHJ** になし
тоножомотáнъ	トノジョモタン	処女である	**K** には тоножомоц онáго トノジョモツ オナゴ「嫁」とある. **Z** とのじょ　夫・良人

убокто	ウボクト	棍棒
умѣкъ	ウメク（動物が）	ほえる
умѣкъкотъ	ウメクコッ	動物の咆哮
урà	ウラ	便所
ураката	ウラカタ	卜占
уракатасуръ	ウラカタスル	うらなう
уракатасурфто	ウラカタスルフト	卜占をする人

薩摩（物類称呼）大分県別府・宮崎・鹿児島．**KHJ** トノジョ　夫殿，御トノゴ　ジョは女性的親愛語

Z ぼくとー　棒．棒きれ．長野県北安曇郡・福井県大野郡・三重県南牟婁郡・奈良・和歌山・愛媛・高知・大分県日田郡・宮崎県都城・壱岐・対馬．

Z うめく→おめく（叫ぶ）

Z おめく（1）大声を出す．叫ぶ．三重・奈良・和歌山・九州．（2）鳥虫などが鳴く．長崎県西彼杵郡高浜．（3）うなる．うめく．福井県大飯郡・三重県多気郡・香川県手島・大分．**KHJ** ウメッ呻吟ヲ（ウ）メク（ツ）

Z うら　便所．はばかり．東北地方・茨城県多賀郡・静岡．**KHJ** になし

Z うらかた　売卜者．易者．南島宝島．KHJ になし

大言海には次のようにある．「うらかた　卜兆（フト）太占（マニ），亀（カメノウラ）卜ニ顕レタル象（カタ）．ウラハヒ．ウラハミ．…敏達紀，十四年二月「大臣即遣子弟，奏其占状（ウラカタヲ）」

原　文	片カナ転写	ロシア語の訳	Z およびその他
			為忠前百首「思ヒカネ，恋シキ人ヲ，エモノニテ問フニカナヘル，うらかたモナシ」 古代語ウラは音韻法則的にインドネシア系タガログ語 *hula*「うらない」に対応する．インドネシア系言語の *h*-に日本語においてゼロが対応することは泉井久之助氏の論文「日本語と南島諸語」民族学研究，17—2 (1952年)，p. 22 に論じられている．ついでながら，日本語と南島語との関係について学問的検討を加えた日本人の最初の論文はこれである．その前にはロシアの言語学者ポリワーノフの「日本・マライ諸語 並行現象の ひとつ」(ロシア科学アカデミー報，第6輯，12巻，1918年，No. 18, pp. 2283-2284) と「日本語における音楽的アクセント体系の研究について．（日本語とマライ諸語との関係について)」中央アジア国立大学紀要，第8集．タシケント1924年とがある．この2つはポリワーノフ一般言語学論文集，モスクワ 1968 年に収められている． ポリワーノフのこの方面の仕事が日本の言語学者によって長いあいだ顧みられなかったのは，今か

ら見れば不思議である．この方面の仕事でポリワーノフに言及したのは松本信広氏がパリで発表した著書 Le Japonais et les Langues Austro-asiatiques. Paris 1928 (p. 25) のみである．

ついでながら，フト・マニについては「占いの一種．動物の骨をやいてうらなうものをいう」とJK に説明されている．フト＜*bət'o「太」は南島基語 bət'al「偉大，太い」(DVLA, p. 29)，マニ mani＜*baniŋ は南島基語 *baniŋ「淡水亀」(DVLA, p. 23)（マライ語 baniŋ「亀の種類 Testudo emys」）に対応することをここ指摘しておきたい．

フト・マニについては古来，もろもろの説があるようである．JK は「占いの一種．動物の骨をやいてうらなうものをいう」と述べ，記垂仁の「如レ此覚時，布斗摩邇邇占相而，求二何神之心一」および神代紀上の「天神以二太占＜布刀磨尓＞一而卜合（ウラフ）之」とを引用する．よく考えて見れば，フト・マニは「うらなうものをいう」という説明は妥当ではない．うらないの材料をさしているのである．JK は「鹿の骨をははかの木で焼いて，割れ目を

原　文	片カナ転写	ロシア語の訳	Z およびその他
			見て占うものというが，明らかではない．このような鹿卜は北アジア民族の間にも伝わるので，起源をこれに求めるものがあるが，わが国でも後期弥生式遺跡から土器とともにその遺品が発見された」とするが，ウラも，フトも，マニも南島語起源であり，マニは「亀」を意味するから，問題である．日本古典文学大系Ⅰ「古事記祝詞」(p.40)に「うらないは，主として亀の甲を焼いてその焼けたさまによってうらなう」という説はフト・マニ（大・亀）ということば自体から見てきわめて妥当な説である．
уро́таюръ	ウロタユル	放浪する， 借金する（должу）	**Z うろたゆる** 淫奔な事をする．遊蕩する．長崎
уссуркотъ ушшентъ	ウッスルコッ ウツシェンッ	投げること 投げすてないところの	**Z うっせる** (1) 捨てる．顧みぬ．鹿児島県肝属郡．(2) 失う．鹿児島県屋久島 УКК (p. 55) によると，ウッスルはウシツル「棄る」である．筑前では十九世紀なかばの『望春随筆』に見えるが，今はスツルを用いる．

уто	ウト	空洞
утóнтъ	ウトンッ	空洞の多い
утенас	ウテナス＜ウトニナス	空虚にする
учкуясъ	ウチクヤス	破砕する
факьтамѣ	ファキタメ	（獣の）糞
фанáгакь	ファナガキ	鼻汁
фанагасасъ	ファナガサス	花が咲く
фанасасъ	ファナサス	〃
фанасастъ	ファナサスッ	花が咲くところの
фанасаскотъ	ファナサスコッ	花が咲くこと
фанансъ	ファナンス	鼻孔

Z うと→うろ (1) 洞．ほらあな．淡路島・岡山・四国・宮崎・鹿児島．(2) 木の洞穴．飛騨・三重県飯南郡・奈良・和歌山・徳島県祖谷
KJH ウト 空虚

Z くやす くずす．こわす．「土手をクヤス」京都府久世郡・愛媛・九州．**KHJ** ウックヤス 破ス 打崩す，クヤス——こはすの古語
JK くゆ〔崩〕（下二段動詞）崩れる．「鎌倉の見越の崎の岩久叡〔岩崩〕の君がくゆ〔悔〕べき心は持たじ」（万3365）「はや川の堰きに堰くともなほや崩なむ」（万 687）．この「くゆ」の使役形が「くやす」．

Z になし **KHJ** になし

Z はなかけ 鼻汁．鹿児島． **KHJ** になし

Z さす 咲く「花がサス」福井県大飯郡・京都府何鹿郡・広島県佐伯郡・愛媛県伊予郡・大分県南海郡・佐賀・長崎・鹿児島．**KHJ** サス 咲ク

Z はなのす 鼻の孔．九州（日葡辞書）・愛媛県新居郡・長崎・対馬・熊本・鹿児島．

原　文	片カナ転写	ロシア語の訳	Z およびその他
			KHJ ハナンス　鼻腔
фанжонинъ	ファンジョニン	産婦	**Z** はんじょにん　産婦．鹿児島．
фанжонтъ	ファンジョンッ	産むことの	**KHJ** ハンジョ　御産　繁昌の意
фарáгъры	ファラグリィ	娯楽	**Z** はらぐり　ふざけること．じょうだん．悪いたずら．「ハラグリするな」熊本県葦北郡・鹿児島
фарáгърысуръ	ファラグリィスル	嘲笑する	**KHJ** ハラグイ　戯事　ハラグイ（腹食）（薩） ハラグレ……（隅）
фарагурешенъ	ファラグレシェン	冗談を言わない	権左の表記から，「腹食」という解釈が正しくないことがわかる．「腹狂」であろう．
фаракáк	ファラカク	怒る	**Z** はらかく　腹をたてる．怒る．九州　**KHJ** ハラカク　怒ル　腹搔ク　**YKK**（p 57）『ハラカク（腹立つ）典型的筑紫方言．……隼人語に入ると大部分意味が違うのにご注意．隼人語では「鶏が巣ごもる」の意』何かの誤解であろうか．
фаракакантъ	ファラカカンッ	怒りを招かざる	
фаракетат	ファラケタッ	かんしゃくもちの	
фачфиракъ	ファチフィラク	乞食する	**Z** はっち　乞食．こじき．大分・佐賀・長崎・鹿児島．**KHJ** ハッチラ　乞食　鉢坊　ハッチボウ（仏語）**OKH**（p. 188）ハチラキ　乞食．鉢開き　クワンジンハチラキと重ねても言う． 権左の表記から見て「鉢開き」であろう．
фачфиракъ	ファチフィラキ	乞食	
фачфираккотъ	ファチフィラッコッ	乞食の，施物	
фачфиракнокотъ	ファチフィラクノコッ	赤貧	

			SSD *hachiraku* a beggar 鉢（ハチ）については **DG** に「梵語 Pātra.（鉢多羅）ノ略，応器，又，応量器ト訳ス」と説明され，E.D. ポリワーノフは「東洋語研究者用言語学概論」(Введение в языкознание для востоковедных вузов)，レニングラード 1928 年，p. 12 において「八」（日本語ハチ）とこの「鉢」（ハチ）との語源説明を加えている．ハチ（鉢）がサンスクリットの pātra-に対応し，後者は印欧基語の *pō̃-tro-「飲むための道具」にさかのぼり，（基語の語根は *pō (i)/*poi/*pī「飲む」）ロシア語の пить〔p'i-t'〕「飲む」，пóйло〔poj-ł-o〕「飲ませた」，пиво〔p'iv-o〕「ビール」が日本語のハチ（鉢）と同源である，となしている．
фáччик	ファッチク	行ってしまう	**Z** はっちく→はってく　行ってしまう　鹿児島． **KHJ** ハッチク　行ッテシマフ
фаширъ	ファシル	破裂する	**Z** はしる　破裂する．佐賀・壱岐・鹿児島． **KHJ** ハシツ　破レル
фéкакуркотъ	フェカクルコッ ＜ファイカクルコト	唾をかけること	**Z** はいかける　水などをぶっかける　愛媛県大三島　**KHJ** になし．

原　文	片カナ転写	ロシア語の訳	Z およびその他
фѣкь	フェキ	肩胛骨	**B** へき　背中のわきの部分．傍背．佐賀
фекь	フェキ	脊柱．背．	**KHJ** になし　**OKH** (p. 176) ヘキ　肩から下にかけた部分で，ここの痛苦を訴える病人は多い
фибаюръ	フィバユル	ひびが入る，古くなる	**Z**, **KHJ**, **OKH** になし
фидака	ヒダカ	鷹，大鷹	**Z** になし　**KHJ**, **OKH** になし
фидáма	フィダマ（火玉）	いなずま，雷神	**Z** になし　**KHJ**, **OKH** になし
фїѐ	フィイェ	笛	**Z** になし　**YKK** によると「笛」は北九州でヒエである．しかし，18世紀前半に薩摩でも同じであった．**SSD** *hie* a flute
фїефук	フィイェフク	笛をふく	
фи́ккоясъ	フィッコヤス	引抜く	**Z**　こやす　引抜く．「大根をコヤス」鹿児島．**KHJ** コヤス　引抜ク
фи́мачь	フィマチ（日待）	終夜つづくところの	**Z** になし　**DG** ひまち　日待〔日祭(ヒマツリ)ノ転〕日ヲ祭ルコト．（密家，道家ノ習慣）コレニハ，終夜，連歌，楊弓，囲碁，ナドス．
фи́мачсуръ	フィマチスル（日待する）	終夜つづく	
финáжо	フィナジョ（雛女）	人形	**Z** になし　**OKH** ヒナジョ，ヒナジョユエ　三月上巳の節句．ハツビナジョ　女児出生後最初の雛の節句で，この祝宴を盛大に行なった．**SSD** *hinajo* a doll

фи́фъ	フィフ	明るい（色彩について）	**Z ひび** 光沢．つや「顔のヒビがよくなった」鹿児島県肝属郡．
фицъ	フィツ	トランク，箱	**Z ひつ** (1) 米櫃．島根県鹿足郡． (2) 長持．香川県三豊郡・鹿児島．
фи́чширь	フィチシリ	肱	**Z ひじしり** 肱．ひじ．京(片言)・京都
фка́и́мон	フ〔ィ〕カイモン	いなびかり	**Z ひかりもの** いなびかり．九州．
фначѐ	フナチェ	港（船テ）	**Z** になし
фогасъ	フォガス	穴をあける	**Z ほがす** 穴をあける．うがつ．九州（日葡辞書）・山口県豊浦郡・九州．
фоге	フォゲ	穴，割れ目	**Z** になし
фокѣ	フォケ	湯気．	**Z ほけ** 湯気．京都府与謝郡・兵庫県佐用郡・鳥取・岡山・広島県佐伯郡・島根県那賀郡・山口・四国・九州． **SSD** *hoke* vapour **YKK** には「ホケ（湯気）四国・中国から沖縄へかけて用いる．延宝九（1681)年『大矢数』一に見えるのは「熱気」だが，共に「火気」と解せられる．併し是を「吐息」に使う所や中国の類形同意語「ホケリ」（湯気）と並べると「吐く煙」とも考えられる」と述べてある（p. 54)．しかし，やや説得力が欠けるとおもう．吉町義雄氏が同じ **YKK** (p.
фокое	フォコイェ	埃	
фокоентъ	フォコイェンッ	埃の	
фокоеньнаръ	フォコイェニナル	埃になる	

原　文	片カナ転写	ロシア語の訳	Z およびその他
			54) にあげる，九州に分布するホメク（蒸暑い）のホがこれと関係するのではなかろうか.
фокь	フォキ	洞窟，断崖，深淵	? **Z** ほき (1) 川辺崖縁の険岨な道. 土佐（幡多方言）・岐阜県吉城郡・岡山. (2) 山間の深い谷. 筑後久留米（はまおき）・鹿児島. (3) 崖. がけ. 筑紫（物類称呼）・大分・佐賀県藤津郡・長崎県北高来郡. **SSD** *hoki* a valley
фокнотъ	フォクノッ	洞窟の	
фонононо	フォノノノ	帆布	**Z** のの　麻布. 岩手県九戸郡・秋田県鹿角郡・岐阜県吉城郡・愛知県北設楽郡・隠岐・壱岐・対馬.
форо	フォロ	柔毛	
форонъукатъ	フォロンウカッ（フォロの多カッ）	羽毛のある	**Z** ほろ　鳥の羽毛. 鹿児島. **K** では фóро フォロ「羽毛」. この単語は **bolo* にさかのぼりさらにオーストロネシア基語 **bulu'*「柔毛，毛，羽毛」にさかのぼる (**DVLA**, p. 34)

インドネシア系	タガログ語	*bulo'*	柔毛
	トバ・バタク語	*'im|bulu'*	〃
	ジャワ語	*wulu'*	〃

ジャワ語	*bulu'*	羽毛をこするもの
マライ語	*bulu'*	柔毛，羊毛，羽毛
ンガジュ・ダヤク語	*bulu'*	毛，羽毛
ホーワ語	*vulu'*	〃　〃
メラネシア系　フィージ語	*vulu|a'*	陰毛
	mbulu|kovu'	髪の結び目
サア語	*hulu'*	多毛である
ポリネシア系　トンガ語	*fulu*	毛，羽毛
フトゥナ語	〃	
サモア語	〃	

фтаджи	フタヂ	曾祖父
фтаджинтъ	フタヂンッ	曾祖父の
фтамаго	フタマゴ	曾孫
фтамѣмаго	フタメマゴ	曾孫
фташъ	フタシ	敷くもの
фтоцъоме́нтъ	ヒトツオメンッ	たった一人の妻をもつところの
фу́кь	フキ	肺

Z ひたし→したし　襁褓．むつき．鹿児島．ふたし　伊豆三宅島

Z おめ　妻．家内．

Z ふく (1) 人畜の肺．南島（八重垣）．(2) 猪の肺臓．鹿児島県肝属郡．(3) 鳥獣の腸．熊本．

原　文	片カナ転写	ロシア語の訳
фукъюръ	フクユル	とびかかる
фу	〔運〕	
фуноваркатъ	フノワルカッ	獲物のない
фуноюнетъ	フノユネッ	幸運でない
фуноетъ	フノイェッ	成功的
фуреме	フレメ	宴会
фуро	フロ	暖炉
фуронъ-ушто	フロンウシト	暖炉の後ろ
фусмуръ	フスムル	煙をあてる
фу́сморкотъ	フスモルコッ	いぶらす物，油煙
футабъра	フタブラ	頬

Z およびその他

(4) 魚の内臓．宮崎県児湯郡．

Z　ふくる　頭で押す．佐賀．

Z　ふー　幸運．果報．南島．

友好会話集には　фуноетъ　フノイェッ「幸運な」，фуноварушчь　ммаеятта　フノワルシチ　ンマイェヤッタ「不運に生まれた」がある．

Z　ふるまい　宴会．酒宴．饗応．青森・群馬・静岡県周知郡．

Z　ふろ　かまど．長崎・宮崎・鹿児島．

Z　ふすぼる　燻る．くすぶる．徳島県美馬郡・広島・硯・長崎県千々石．**OKH**(p. 28) フスモルくすぶる

Z　ふーたぶら　頬．ほお．茨城県稲敷郡・大分県宇佐郡・長崎県平戸．

ポリワーノフは「日本のナゾナゾの形式的タイプ」(1918年) の中で，長崎の形を *φu : tampura* となしている．

фуюжин	フユジン	不精者	**Z** ふゆーじ．なまけ者．不精者．熊本．ふゆじん　南島八重山．　**SSD** *fuyushigoro*～*fuyujigoro* lazy fellow
фуюна́тъ	フユナッ	怠けの	**Z** ふゆーか→ふよごろ　大儀な．不精な．佐賀・熊本．ふゆーな　筑後久留米（はまおき）・大分・鹿児島．**KMK** には『「不精者」を肥後方言でフユージ，薩隅方言でフユシ・ヒユシというのも中世の「不用人」（役に立たぬ人）から来た語に違いない』とある（p. 93）．権左のフユジンは上村孝二氏の推定をたしかめている．18世紀前半には薩摩ではフユジンと発音されていたのである．「用」はヨウであるから，薩摩方言ではユとしてあらわれるはずである．
фятт	フィヤッ	常に	**Z** になし　**OKH**（p. 15）ヒャーツ　ずっと　遠く，遙かに物の続く形容．人がヒャーツ　つぢた人が遠く迄打続いた．**KHJ** ハット　常に
фя́ттонтъ	フィャットンッ	常の	
фяттъкимоиркот	フィャッキモイルコッ	常に精励する事	
фяттъфанасастъ	フィヤッファナサスッ	常に花咲くところの	
цкаечкара	ツカイェチカラ	余儀なく	**Z** つかえる　都合が悪い．さしつかえる．愛媛県周桑郡
цуба́кърами	ツバクラミ	燕	**Z** になし　цуба́кърамѣ ツバクラメもあり

原　文	片カナ転写	ロシア語の訳	Z およびその他
цубса	ツブサ	切株	**Z** つっさ　木の切株．鹿児島県肝属郡． **Z** のツッサよりも　ツブサの方が古形をたもつ．
цудзъ	ツヅ	唾	**Z** つず　唾液．つばき．硯・山口・九州・南島．
цудзъфакъ	ツヅハク	唾をはく	
цудзноукатъ	ツヅノウカッ	唾の多い	
цкужиръ	ツクジル	砕く，突く	**Z** つくじる　つつきまわす　熊本・鹿児島県肝属郡．
цтò	ツト	俵，かます	**Z** つと　わらづと．藁苞．和歌山県東牟婁郡・宮崎県都城・熊本．
цýбушъ	ツブシ	膝	**Z** つぶし　膝頭．ひざ．九州（日葡辞書）・豊州（物類称呼）・徳島・愛媛県新居郡大島・大分・福岡・壱岐・対馬・鹿児島・南島．
цупса	ツプサ	キノツプサ　参照．	
чаноко	チャノコ	朝食	**Z** ちゃのこ　朝食．山梨・静岡・愛知・岐阜・兵庫県神崎郡・鳥取県西伯郡・島根・香川・徳島県阿波郡・佐賀．
чанокосуръ	チャノコスル	朝食をとる	
чего	チェゴ	編み籠	**Z** てご　蔓などで作った籠．熊本． **OKH** (p. 203)　チェゴ　手籠

権左ではほとんど凡ての場合にテはチェ，デはヂェと表わされている．このチェ，ヂェについて，**KHK**（p. 236）の次の説明が参照さるべきである．「鹿児島市（旧）ではもうきかれないが，薩南地方一帯は〔tʃe〕がきかれる．次に大隅の肝属郡東部から囎唹郡南部にかけてもきくことがある．離島では南種子町の〔tʃe〕は有名．屋久にも一部〔tʃe〕．接続助詞のテの〔tʃe〕にだけについて言えば，薩南地方でもきかれる．今回の調査で「切手」には〔tʃe〕がでないのは公的に頻度が多いためであろう．薩南地方大隅南部・南種子等の地方ではデの方も〔dʒe〕となりやすい．〔sodʒe〕袖，〔ɸudʒedʒe〕筆で，など．」権左は鹿児島市地域の出身と見られるから，チェ，ヂェは18世紀前半に鹿児島市地域でも拡まっていたと見られる．

テは語中においてもチェであることは，たとえば「あてがう」（ロシア語を直訳すれば「配分する」）をアチェガウ（ачегавъ）としていることからもわかる．大分県でもテ，デはチェ，ヂェのように発音される．手　チェ，見て　ミチェ，できた　ヂェケタ，袖　ソヂェ．**KHK**, p. 255.

原・文	片カナ転写	ロシア語の訳	Z およびその他
			テがチェでない場合は次のようなものである． теой　テオイ（手負）「傷」 теойнотъ　テオイノッ（手負のッ）「傷つきたる」 теойсур　テオイスル（手負する）「傷を負う」 теавасур　（теовасур の誤記か（テアワスル「傷つける」 тера　寺 権左の「友好会話集」(1739 年）には，ロシア語の ученики「生徒たち」を「手習いたち」と訳し тенаретачь テナレタチと表わしている． これらの単語のテがチェとならないのは，前記の「切手」キッテ（キッチェに非ず）とやや似た理由ではあるまいか．つまり，「手負」（テオイ），「手習」（テナライ）のばあい「標準語」形またはそれに近い語形が保持されたのは，これらが比較的新しく標準語からとり入れられたことを示すであろう．テラ「寺」の場合は寺の住職らの「寺」の発音が標準語であったことを示すであろう．
чéнамъ	チェナム	連れだつ，徒党をくむ	**Z てなむ**　連れだつ．伴う．宮崎県西諸県郡・熊本県宇土郡・鹿児島．**SSD** *tenon～tenots*

ченамасур	チェナマスル	連れて行く
чéннавъ	チェンナウ	恵みをうける
чéннавкотъ	チェンナウコッ	訴え
ченоджъ	チェノヂ	徒党
ченофáра	チェノファラ	手の掌
ченукь	チェヌキ	手袋
чéппунцмуршко	チェップンツムルシコ（鉄砲ン詰むるシコ）	弾薬筒，装薬
читтокѣнкĩõ	チットケンキョ（チット・ケン・京）	郊外の町

accompanying　**OKH** (p. 32) テナム　同道する，手並むであろう．

Z　てんなう　(1) 許しを受ける．「それは誰にテンノウて持って来たのか」佐賀．(2) 人の願を受諾する．九州（日葡辞書）

Z　になし

Z　てのはら　掌．てのひら．岩手県九戸郡・広島・山口県玖珂郡・高知・九州

Z　てぬき　手袋．長崎・熊本県玉名郡・鹿児島県谷山．

Z　しこ　分量．「ふたシコ」「三シコ」．佐賀・鹿児島．

チット・ケン・キョは「チット〔離れている〕けれど京」を意味するであろうか．とすれば，薩摩に逆接の接続助詞ケンが存在したことになる．

接続助詞ケンについては **Z** につぎのように述べてある．(1) から．故に．備中（俚言増補）・鳥取・出雲・岡山県小田郡・広島・香川県丸亀・徳島・愛媛・高知県幡多郡・大分・熊本・福岡・佐賀・壱岐．(2) けれども．「そいだケンいやだ」

原　文	片カナ転写	ロシア語の訳	Z およびその他
			愛知県幡豆郡. **KHK** (p. 253) は逆接「けれども」にあたるものとして，日向でケンドン（またはケンド・ケン・ケッドン・ケッド）を用いると述べる．権左とボグダーノフの共著（稿本)「友好会話集」(1739 年）には「呼んだけれども」というところを，ѿбардомъ ヨバルドム (yobardom) としるしているところがある（「遊びについて」)．このドム (dom) は鹿児島県において一般的な逆接「けれども」を表わすドン (**KHK**, p. 242) に対応し，「標準語」の「ドモ」とドンとの中間の段階を示す．
чки́рь	チキリ	小さな秤(はかり)	**Z** ちきり　肥後菊池郡（俗言考)・岩手県江刺郡・福島県信夫郡・九州・南島徳之島．**DG** にはこの語の起源の説明がある．
чюндаре	チュンダレ	つりさげたたらい	**Z** になし
шакѣ	シャケ＜鮭＜アイヌ語	鱈	
ше́бь	シェビ	滑車	**Z** せび→せみ　帆をあげおろしするための帆柱の滑車．長崎県西彼杵郡・五島．**DG** せみ　滑車 形，蟬ノ，樹ヲ抱ケルガ如シ　**OKH** セビ 蟬

шешò	シェショ	狂乱	**Z** になし．ショはシャウにさかのぼるから「殺生」であろう．
шешóнтъ	シェションッ	狂暴の	
шешóсуръ	シェショスル	狂乱する	
шéкъ	シェク	強く押す	**Z** せく　戸障子を閉める．九州（日葡辞書）・筑前（望春随筆）・山口・九州．**YKK** には「意味が標準語と少し違う」北九州語として「セク　閉める」をあげるが，南九州にも分布していたと思われる．
шеншонашъ	シェンショナシ	非常に質素な	**Z** せんしょー　身分不相応の贅沢．過差．京(片言)
шеро	シェロ	刑吏	**Z** になし
шивокѣ	シヲケ	茶など飲むとき，一緒に少し食べるもの	**Z** しおけ　酒の肴．熊本県南関・鹿児島副　食物．　鹿児島県姶良郡． ちゃじおけ．お茶に添えて出す漬物類．鹿児島．**KHJ** シオケ　菓茶子　塩気の意　**OKH** 茶と共に出すのは甘い物より塩気の方が普通で，梅干，沢庵，また煮た物をも出す．菓子を出すのは改った賓客に対してのこと．チャジオケと同じ．（p. 113）
шигю	シギュ	しばしば＜繁く	**Z** になし
шигюсуръ	シギュスル	しばしばくり返す＜繁くする	

原　文	片カナ転写	ロシア語の訳	Z およびその他
шимога́нѣ	シモガネ	氷，氷塊	**Z しもがね→かね**　氷．「シモガネが張る」熊本県葦北郡・鹿児島．**K** にも　シモガネ「氷」がある．
шко	シコ	分量	**Z しこ**　分量．「ふたシコ」「三シコ」　佐賀・鹿児島．
шуфоньоцуръ	シュフォニオツル	崩壊する	**Z** になし　「四方に落つる」であろう．下記参照． 「印」　シュルシ　шурушъ 「汁」　シュル　шуръ（スープ） 「普請」　フシュン　фшунъ （しかし фшинштатъ フシンシタッ）
штаттатъ	シタッタッ	привлагїи（水分でジメジメしたるの意か）	**Z したる** (1) こぼれる．岐阜県郡上郡・出雲・徳島県板野郡　(2) 笊などから漏れること．熊本．
ĩõго́дакотъ	ヨゴダコッ	ゆがんだ，斜の	**Z よごーだ**　まがった．ゆがんだ．筑後久留米（はまおき）．**KHJ, OKH** になし
ĩõковантъ	ヨコワンッ	休息せざる	**Z よこう**　休む．いこう．九州（日葡辞書）・筑後久留米（はまおき）・九州．
ĩõма	ヨマ	紐	
каван ъĩõма	カワン　ヨマ	革の紐	**Z よま→やま**　ひも．細紐．九州（日葡辞書）・

ĩомankïe	ヨマンキエ（ヨマのキレ）	紐	九州.
юдансуръ	ユダンスル	長びかせる	**Z** ごゆだんなさいませ　ごゆっくりなさいませ.「もうお帰りですか. ゴユダンナサイマセ」高知.
ямадачь	ヤマダチ	盗賊	**Z** やまたち　山賊. 仙台（浜荻）
ямадачьно нюбо	ヤマダチノニュボ	女盗賊（ヤマダチの女房）	
ямадачьнотъ	ヤマダチノッ	盗賊の	
ямадачсуръ	ヤマダチスル	盗賊行為をする	

権左の資料における外来語

「新スラヴ・日本語辞典」(1738年) は18世紀初頭において，次のような外来語が薩摩の民衆のあいだにひろまっていたことを示している．権左の父は薩摩・大阪間の商船の舵手であったし，この父は権左をやがて舵手にしようと考えていたのであるから，権左が当時の上層階級の言語を用いていたとは思われない．参考に荒川惣兵衛氏の外来語辞典（角川書店1967年）から関係個所を引用しておく．（以下に示す単語のうちバンコだけは **K** による）

1) бáнко	バンコ	ベンチ	バンコ（ラテン＞イタリア＞ポルトガル，スペイン banco ベンチ，腰掛け，縁台，床几，すずみ台「バンクと云語は以太利語のバンコの転訛にて腰掛の事なり」福地源一郎訳『社会弁緒言』1871

原　文	片カナ転写	ロシア語の訳	Z およびその他
			年. **Z** ばんこ　(西語 banco) 涼み台. 縁台. 広島県沼隈郡・愛媛県今治・九州.
2) бидоро	ビドロ	ガラス	ガラス　ビードロ　ラテン vitrum＞ポルトガル vidro (フランス vitre) 吹き玉・玻璃 (ハリ) ギヤマン・ガラス〔ラテン vitrum「青色染料をとる植物(古代ガラスの青緑がかった色によって) ガラス；窓〕
3) биродо	ビロド	ビロード	ビロード　ポルトガル vel(l)udo, スペイン velludo 天鵞絨・絹織物の1つ
4) бωбра	ボブラ	かぼちゃ	**DG**「ボウブラ　南瓜　葡萄牙語　Abobora. ノ略転.」abóbora. 第2音節のアクセントのため語頭の a が消滅したことはあまり知られていない.
5) ботан	ボタン	ボタン	ボタン　ポルトガル botão
6) даша	ダシャ＜ラシャ	羅紗	ラシャ　ポルトガル raxa　羊毛で織った地の厚い織物の一種
7) мерьясъ	メリヤス	長靴下	メリヤス「(ラテン＞) スペイン, ポルトガル medias 密に編んで伸縮自在にした織物. メリヤスという語は多分メジアスというスペイン語かま

たはメイアスというポルトガル語が転化したものらしい」 スペイン語 media「靴下」，ポルトガル語 meia「長靴下」「メリヤス」．メリヤスはメイヤスともいう．語末のスはポルトガル語の複数接辞 -s に対応するか．権左がメリヤスを「長靴下」という原義でとらえているのは注目される．メリヤスは日本語において最初は「長靴下」を意味したのであろう．

8)	табакъ	タバク	煙草
9)	шабóнъ	シャボン	石鹸

タバコ（ハイチ語 tabaco>）スペインtabaco，ポルトガル tabaco

シャボン（ラテン>）ポルトガル sabão スペイン jabón フランス savon 石鹸

平賀源内『物類品隙』1763年/「シャボン……‘本草’の石鹸也」谷川士清『和訓栞』1777年/「石鹸をシャボンというは西洋雅言にてサポというの転ぜるなり」ここで平賀源内・谷川士清が引用されているが，シャボンを最初に記録したのは権左である．

シャボンという外来語を日本人として最初に記録した人が「歩兵」を качмуша カチムシャ（徒武者）として，「役所」，「事務所」を за ザ（座）として，表わしているのは興味をひく．

権左における新語

次の単語は18世紀前半の薩摩の民衆に知られていた.

гакша	ガクシャ		これはロシア語 философъ 「哲学者」の訳である.
жїю̀	ジュ	自由	日葡辞書 Iiyŭ Liberdado とあり
жїюнатъ	ジユナッ	自由な	
жїюнакотъ	ジユナコッ	自由な事	
жїюнекотъ	ジユネコッ	自由のない事，奴隷化	
жїюсашенъ	ジユサシェン	奴隷化する	
жїюфошга́ръ	ジユフォシガル	自由を欲しがる	
жїюньнетъ	ジユニネッ	自由でないところの	
токѣ トケ	時計		

KHK p. 143 にはトケイ（時計）のケイの発音について，鹿児島県全体が kei または ke^{i} であって大隅半島の南部の一部だけが ke であることを示しているが，権左の資料は鹿児島市地域で 18 世紀前半には ke であったことを明示している.

цуцъ	ツツ	通辞（通訳者）

語　彙　索　引（五十音順）

ア

アコクロ……44
アコネッコッ……45
アザ……44
アサイ……44
アシノハラ……46
アド……44
アトサメ……45
アナホガス……45
アニョ……45
アヒル……46
アマル……45
アメタコッ……45
アラケ……45
アワブク……44
アワラシュナス……44

イ

イッスル……58
イッチ……59
イット……58
イナゴ……57
イモドス……57
イラエ……57
イ　リ……58
イルコ……57
イ　ヲ……56

ウ

ウチクヤス……89
ウッスル……88
ウ　ト……89
ウ・ボクト……85
ウメク……85
ウ　ラ……85
ウラカタ……85
ウロタユル……88

エ

エクレ……55
エノソラ……55
エボシ……54
エントゥ……55

オ

オクイ……80
オスカ……80
オゾム……79
オチャモンノ……81
オトゲンシタ……80
オノクヅ……80
オヤスフト……81
オロヨカ……80
オンヂョ……80

カ～ガ

カカジル……60
ガクシャ……108
カ　ゲ……60
カタコト……61
カタシノ・アブラ…61
カットシュ……62
カド……60
カネンスヂ……61
カノシシ……61
カプシル……61
カミ・カス……60
カミ・サバク……60
カヤス……62
ガ　ル……50
ガワッパ……50
カワ・ヨマ……105
カンヂャ……61

キ

キガハツヅル……63
キチネ……64
キモイル……63
キモクル……63
キンソンスル……64

ク

ク　グ……71
クネブ……71
クビル……71
ク　モ……64

ケ～ゲ

ゲ　ケ……20
ケシンメ……63
ゲネン……51

ケマツユル……62
ケン……63
ケンキョ……62

コ～ゴ

コギ……69
ゴク……51
コサグ……71
コシクル……71
ゴジェムケ……51
コッテウシ……70
コヅミ……69
コナス……70
コネ……70
コノヂュ……70
コブ……64
コヤス……71
コワカトンッ……69
コンゴ……70
ゴンシュン……52

サ～ザ

サイェン……81
サカシ……81
サキ・キモイル……81
ザッショ……55
サバク……81
—サメ……81

シ～ジ

シギュ…… 103
シコ…… 104
シタル…… 104
ジミ……55
シモガネ…… 104
シャケ…… 102
シャボン…… 107
ジユ…… 108
シヲケ…… 103

ス～ズ

スガホグル……82
スクモン……82
スケモンスル……82
スヨ……83
スラコト……82
ズエ……56

セ～ゼ

セク…… 103
セショ…… 103
セビ…… 102
セロ…… 103

ソ

ソクイ……82

タ～ダ

ダクマ……52
タシナム……84
ダシャ……53, 106
タバク…… 107
タマガル……83
タマシガキク……83
ダル……52
ダンギィ……52
ダンマ……52

チ～ヂ

チキリ…… 102
ヂダ……53
チットケンキョ… 101
チャノコ……98
チュンダレ…… 102

ツ～ヅ

ツカエチカラ……97
ツツ…… 108
ツヅ……98
ツト……98
ツバクラミ……97
ヅブイル……54
ツブサ……98
ツブシ……98
ヅモル……54
ヅル……54

テ～デ

テゴ……98
デクル……53
テナム…… 100
—デニ……53
テヌキ…… 101
テノヂ…… 101
テノハラ…… 101
デンゴボネ……53

テンナウ…… 101

ト～ド

トイマワス……84
トイヤツムル……84
トエタッ……84
トケ…… 108
トゼンナカ……84
トノジョ……84
ドヒュ……54
ドンナコト……54

ナ

ナクサム……77
ナナンコ……78
ナマシカ……77
ナヤカス……78
ナラミ……78
ナル……78

ニ

ニセ……78

ヌ

ヌスド……79
ヌメル……79

ネ

ネブル……78
ネンゴロ……78

ノ

ノドンコ……79
ノノ……94
ノノコ……79
ノロ……79

ハ～バ

バキ……46
ハシル……91
ハチヒラク……90
ハッチク……91
ハナ・ガキ……89
ハナ・サス……89
ハナンス……89
ババ……46
ハラカク……90
ハラグリィ……90
バンコ…… 105
ハンジョニン……90

ヒ～ビ

ヒエ……92
ビキ……46
ヒダカ……92
ヒダマ……92
ヒチシル……93
ヒツ……93
ヒッコヤス……92
ビドロ…… 106
ヒナジョ……92
ヒバユル……92
ヒマチ……92
ヒル……93
ビロド…… 106

フ～ブ

ブエン……48
フカリモン……93
フキ……95
フクユル……96
フスムル……96
フスル……49
フセ……50
フタシ……95
フタヂ……95
フタブラ……96
フタマゴ……95
フタメマゴ……95
ブチノエ……49
ブト……48
フトナコッ……49
フテコッ……50
フナテ……93
フノワルカッ……96
フユジン……97
フユナ……97
フレメ……96
フロ……96
ブンブンニ……48

ヘ

ヘカクル……91
ヘキ……92

ホ～ボ

ボイ……47
ホガス……93
ホキ……94
ボクイ……47
ボクト……47
ホケ……93
ホゲ……93
ホコエ……93
ボタン…… 106
ボットスル……48
ボノクド……47
ホノノノ……94
ボブラ……47, 106
ボボ……47
ボボシ……47
ホロ……94
ボンバ……47

マ

マナカ……71
マブイ……71

ミ

ミムノハ……71

ム

ムカバ……77
ムゾガル……72

メ

メダチ……72
メロ……72

ヤ

ヤマダチ…… 105

ユ

ユダンスル…… 105

ヨ

ヨゴダコッ…… 104
ヨコワンッ…… 104
ヨマ…… 104
ヨマンキエ…… 105

ン

ンバ……71
ンマンフネ……72